



千葉大学医学部同窓会報 第168号 題字 故鈴木五郎 (大11卒 元みのはな同窓会長)

編集発行者
千葉大学医学部
みのはな同窓会報編集部
〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1
千葉大学医学部内
みのはな同窓会
電話 (043) 202-3750
FAX (043) 202-3753
e-mail : info@inohana.jp
HP : http://www.inohana.jp/

年頭の挨拶

みのはな同窓会長 伊藤 晴夫 (昭39)



みのはな同窓会の皆様、明けましてお目出度うございます。

昨今、医学・医療とその周辺には落ち着かぬ出来事も多々見受けられますが、明るい未来も垣間見られます。昨年9月には、神戸の理化学研究所、先端医療センター病院でiPS細胞から作製した網膜色素上皮シートを移植する加齢黄斑変性の臨床研究が始まりました。再生医療実現への大きな一歩で、まさに新時代が始まったものと思われれます。今後の医学・医療の発展は目覚ましいものがあると思われれますが、課題も多いかと考えます。千葉大発の研究を期待しております。みのはな同窓会の目的である医学部支援もこの一助となればと思います。

周年記念事業もほぼ初期の目標を達成することができました。記念誌、医学部理念の言語化と並んで最大の懸案でありました新同窓会館も完成いたしました。この建物は斬新なデザインが注目され、建築デザイン専門月刊誌「新建築」(新建築社発行)の10月号でも紹介されました。135周年記念事業の推進にあたっては、数々の困難な社会状況の中、多くの方々からご寄付を戴きました。ここにあらためて厚く御礼申し上げます。新みのはな同窓会館は、ほぼ毎日利用されており、ホールにつきましては、各講座、事務局、学生と幅広く、また繰り返し利用頂いていることが多く嬉しいかぎりです。医学部のみならず、薬学部、看護学部の方にも使われています。和室の方は主に学生の部活に使用されており、こちらも他部局の方も使われています。

事務室が明るく広くなり、お見えになった方々からはお褒めの言葉をいただいております。

最終講義

のご案内

薬理学

中谷 晴昭 教授

日時 平成27年2月4日(水) 午後3時半

場所 医学部第一講義室

演題 私の不整脈研究

—基礎研究医として過した37年間をふりかえって—

生殖生物学

年森 清隆 教授

日時 平成27年2月13日(金) 午後3時半

場所 医学部附属病院西棟1階講義室

演題 精子と卵子の出会いのために

—基礎研究から不妊症診断と治療への挑戦—

医療情報学

高林 克日己 教授

日時 平成27年2月17日(火) 午後1時半

場所 みのはな記念講堂

演題 医療情報学が医学・生物学を造る

—これからの医療パラダイムシフトと医療情報学—

分子病態解析学

野村 文夫 教授

日時 平成27年2月17日(火) 午後3時半

場所 みのはな記念講堂

演題 私の歩んだ道—新しき検査診断学を求めて—

おります。特に事務室北側の窓からの緑は「リゾート地のようにすね」と絶賛されているようです。千葉医学会、猪之鼻奨学会の事務室もありますので相互の連携もスムーズに行く事と思っております。会員の皆様も来葉の折には訪ねて頂ければ

幸いです。みのはな同窓会員の皆様には本年もご健康にてご活躍されますようお祈り申し上げます。新春インタビューの動画を1月初旬にオンライン会報にて配信します。

みのはな同窓会賞受賞候補者募集要項

第二〇回(二〇一五年度)みのはな同窓会賞の受賞候補者を左記により募集いたします。

一、受賞対象者

① 社会貢献賞

本会員で、医療活動の顕著な業績により、社会に高い貢献をした個人またはグループ。

② 功労賞

医学および広く文化の各領域において、千葉大学および千葉大学みのはな同窓会に多大の貢献をした者。

二、表彰

① 社会貢献賞

(三件以内)盾および賞金(総額三十万円以内)を贈呈します。

② 功労賞

(一件以内)盾および賞金十万円を贈呈します。

三、応募方法

所定の申請用紙により、二〇一四年十二月一日から二〇一五年一月三十一日までに申請して下さい。

四、受賞者の決定

選考委員、常任理事会の議を経て、会長が行います。審査結果は二〇一五年五月中頃までに各申請者に通知すると共に、みのはな同窓会報に掲載します。

五、問い合わせおよび申請用紙請求先

千葉大学医学部内、みのはな同窓会事務局
申請用紙は同窓会ホームページよりダウンロードすることが出来ます。

紙面紹介

年頭の挨拶	1	課外活動団体	21
各地区会長挨拶	2	会員から	24
就任挨拶	3	人事異動	25
各地のみのはな会	4	著書紹介	26
クラス会	5	雑文雑談	27
7	6		
9	7		
10	8		
11	9		
12	10		
13	11		
14	12		
18	13		
20	14		
21	15		
	16		
	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
	31		
	32		
	33		
	34		
	35		
	36		
	37		
	38		
	39		
	40		

るの は な 同 窓 会 各 地 区 会 長 挨 拶

るの は な 会 茨 城 県 支 部 の 会 長 を 引 き 受 け て

るの は な 会 茨 城 県 支 部

新 会 長 中 田 義 隆 (昭 36)



平成26年(2014年)10月25日のるの は な 同 窓 会 茨 城 県 支 部 総 会 に お い て 会 長 に 選 出 さ れ、前 任 の 佐 藤 忠 夫 先 生 (昭 29) か ら 会 長 を 受 け 継 ぐ こ と に な り ま し た。

私は昭和36年卒でインターン終了後に千葉大学神経精神医学教室に入局しました。昭和45年に助手に、1

年後に脳神経外科教室の新設に伴い同教室の助手に移り、昭和52年4月に筑波大学脳神経外科の助教授として赴任しました。昭和60年2月に筑波大学附属病院の至近距離にあり救命救急センターを有する新設の筑波メディカルセンター病院院長に就任し、以来現在に至ります。茨城に居付いて37年になります。現職は公益財団法人筑波メディカルセンター代表理事およびつくば市医師会会長を務めています。本会は長らく水戸・日立など県中・県北の同門の先

生方を中心に活動されていましたが、筑波大学が発足して以降、つくば市や土浦市を含む南地域の医師が増えています。その結果、本会の会員数も増加し、現会員数は113名になりました。

最近では、筑波大学整形外科教授に千葉大学から山崎正志先生(昭58)が赴任されましたが、本会にとって大きな喜びであるとともに本会の活性化につながることを期待しています。本会は原則として1年に1~2回の役員会、2年に1回の総会が開催されています。会報は10年前から2年に1度発刊を続けていて、今年12月に第5号が発刊の予定です。

総会への出席者は常時20~30名程度、会費の集まりは2010年が42%、2012年が35%、2014年が50%という状況です。亥鼻の丘に学び、縁があつて職場あるいは生活の場をここ茨城県におく我々にとつて、母校の発展のニュースは誇りであり、うれしいことです。また、診療面でトツプレベルの話を伺うことは私どもにとつて新たに活力を生む源でもありません。さらに日常の情報交換の場として、楽しみをあるいは悩みを語り合える、そのような場としてこの会が役立つようにしていきたいと思ひます。

いた、「お坊ちやま」である。埼玉とは縁がないわけでもない。3月9日の東京大空襲で焼け出された後、我が家は軒たしした末、埼玉は深谷で終戦を迎えることとなった。国民学校1年生の夏であつた。銃後の戦争を記憶する最後の年齢と言えようか。昭和14年2月3日生まれの75歳である。いつの間にか大変な年寄りになつてしまつた。後期高齢者などという肩書まで頂戴してしまつている。

埼玉でのこの40余年の間、同窓の諸先輩のお手伝いが、地域を守る。若手の仕事と心得て続けてきたつもりであつた。常に先輩の後姿を目にしながらかんとかお役に立てればと励んできた。平成13年、阪信先生(昭35)が、日本医師会での仕事が忙しくなつたためにるの は な 同 窓 会 の 常 任 理 事 を 退 任 さ れ 引 き 継 ぐ こ と に な っ た。それまでは遠くの事として同窓会を感じていたのが、常任理事会に出席するようになって、大学の諸先輩、教授陣とも顔を合わせるようになっていった。そして、大学が直面している大問題(独立行政法人化、教育改革、研究の高度化、地域との一層の関連性など

るの は な 同 窓 会 埼 玉 県 支 部 の 支 部 長 を 引 き 継 い で

るの は な 同 窓 会 埼 玉 県 支 部

新 支 部 長 吉 川 広 和 (昭 40)



伊藤敏夫先生(昭30)の後を引き継いで、埼玉のるの は な 同 窓 会 の 支 部 長 を 仰 せ つ か っ た。

大学から埼玉へ出張となつたのが昭和46年4月であつたから、今年で43年を経過した。随分と長い年月を埼玉で過ごしたことになる。埼玉が第2の故郷であるといつても間違いなからう。生まれは東京下町、両国は千歳町、鼠小僧の墓がある回向院の幼稚園に通園して

の追及等々)にも触れ大人の真摯な苦悩と日々のご苦勞を理解することとなる。一方、歴代の同窓会長が、同窓会の活性化のためには何をなすべきか、関心を高めるにはどうすべきか、若手の活躍の場はどうあるべきか等々を喫緊の課題として苦慮されてきた姿を常任理事会を通して見てきた。

昨年の理事会では、若手の意見や不満を直接伝達することが出来る機関が、会長直属の諮問委員会という形で承認された。各県支部にも共通する問題があるので、はと考えるがいかか。埼玉のるの は な 会 の 現 状 に つ い て 触 れ る。

今後の展開はどうあるべきか、一つ、埼玉のるの は 会 の ホ ム ペ ー ジ を 開 設 し て、より多くの同窓に情報を伝達する。メールアドレスを持つ会員にはより頻りに常任理事会などの情報やニュースを伝達、意見の交換等も可能にする。つまり、情報伝達手段に工夫を加えて会報や総会のみならず情報ネットワークを構築する。また、県内の大学・公的病院等に勤務する同窓との連携を密にする工夫はないか。

祝 叙 勲

平成26年 秋の叙勲

瑞宝重光章

鈴木 守 (昭39)

瑞宝中綬章

嶋田 裕 (昭35)

瑞宝双光章

神尾 鋭 (昭31)



就任挨拶

千葉大学予防医学センター

生体影響解明研究部門 教授 関根章博



関根章博

平成26年9月1日より予防医学センター生体影響解明研究部門教授に就任いたしました関根章博です。千葉大学での研究および教育の機会を賜りましたこと、心より感謝申し上げますとともに、千葉大学の一員として高度医療を確立できるような精一杯頑張りたいと思っています。

私は、製薬会社で15年間、理化学研究所遺伝子多型研究センターで6年間、京都大学医学研究科で8年間、研究に従事してきました。製薬会社では薬理・生化学部門に所属し、2薬剤の開発に成功しましたが、その難しさを痛感させられた時期でもありました。当時、研究企画も併任したことから、今後の新薬開発には網羅的遺伝子発現解析やゲノム

ム広域解析が重要になると確信し、40歳を超えた年齢も考えずに、一念発起してゲノム研究の道に足を踏み入れることになりました。専門領域の変更、民間からアカデミアへと、大きな岐路だったと思います。卓越した師匠の下に配属されたこともあり、ミレニアムや国際Humana等のゲノム解析を用いた国内・国際プロジェクトに従事させて頂いています。その後、縁あって京都大学医学研究科に所属し、次世代シーケンサーやタイプング技術を用いた薬剤応答性の違い、副作用、遺伝性疾患、多因子性疾患等のゲノム網羅的解析に取組んできましたが、漸く、幾つかの疾患での原因・易罹性遺伝子が解明でき、アプローチの仕方が分かってきた状況です。また、多因子性疾患の創薬ターゲット抽出を目指し、病態の分子メカニズムでの理解のため、標的細胞の取得

できる疾患では、オミックス解析も開始しましたが、遂行する程、その難しさを感じています。オミックス解析は疾患の理解を高める重要なツールですが、唯一無二ではなく、多くの先生方のお力添えによる様々な角度からの連携研究があつて活きた情報になると確信しています。ぜひ千葉大学の先生方と一緒に高度医療を実現したいと願っておりますので、ご興味のある先生方どうぞ声をかけてください。

一方、医師に限らず、薬剤師、看護師、臨床検査技師等、医療に従事する多くの方々が、遺伝子診断・病態の理解、治療、治療効果や副作用予測、早期予防・診断・治療の確立、iPS細胞の臨床応用、臨床試験の場面等で、オミックスの知識が欠かせなくなる時代が近い将来に迫っていると感じます。それぞれの専門知識に加え、膨大なオミックス情報の取扱いを要求される場合もあると思います。本学を卒業される方たちは、必ず医療や研究現場でリーダーとして活躍されるはず

です。その方たちがオミックス研究の知識を有し、高度な医療に当たれるよう、教育の場を通じて情報提供

し、一緒に体制作りを実現できるように努力したいと考えています。まだまだ力不足ですので、

獨協医科大学

整形外科学講座

主任教授

種市 洋 (昭61)



平成26年4月1日付で、獨協医科大学整形外科学講座主任教授を拝命いたしました。

昭和61年千葉大学医学部を卒業後、1年間千葉大学第三内科に在籍し、昭和62年4月に出身地にある北海道大学整形外科(金田清志教授主催)に入局いたしました。北大病院と関連病院での一般整形外科修練の後、平成4年から北大整形外科脊柱班に所属いたしました。当時の北大では脊柱側弯症をはじめとした脊柱変形、脊椎外傷、脊椎腫瘍、脊椎変性疾患に対する脊椎インストゥルメンテーションを応用した脊柱再建術を主たるテーマとして諸先輩たちが精力的に研究、診療を行

大学関係の皆様方のお力添え、ご助言、ご指導を賜れますよう心よりお願い申し上げます。

つておりました。「すべての脊椎外科領域をカバーすべく修練し、診療面での苦手領域をつくるな」という金田教授の指導方針にしたがい、後頭頸椎移行部から仙骨・骨盤にいたる全ての脊柱領域における、あらゆる疾患と外傷に対する外科治療の研鑽を積んで参りました。金田教授は胸椎腰椎前方手術の世界的なパイオニアで本邦随一の実績がありましたので、私自身数多くの前方手術の経験を積みこつてきました。胸椎腰椎前方手術では周囲を心、肺、肝、腎などの臓器や大血管群に囲まれた病巣に対する外科的処置を行うため、整形外科医にとって不慣れで敬遠されがちです。しかし、椎体、椎間板といった脊柱の主要部分にあたるため同部位に直接外科的処置を行うことは治療上、きわめて有用である場合が多いものです。この前方手術に熟練

できる指導環境を得たことと相俟つて重要であると考へております。また、診療面では診療各科との連携を重視し、獨協医科大学に貢献できる診療科運営に努めて参りたいと存じます。

平成18年には北大整形部門の野原裕教授の主催する獨協医科大学整形外科学教室助教授としてご採用いただき、脊椎外科を中心に診療と研究を重ねてきました。特に脊柱変形では乳幼児から超高齢者にいたる幅広い年齢層の治療に取り組み、全国からの困難な脊柱変形患者に対する手術を数多く手がけて参りました。従来、脊柱変形の多くは特発性や先天性側弯症など小児整形外科の範疇に含まれておりましたが、少子高齢化の著しい昨今では成人脊柱変形に対する治療ニーズが高まり、対象症例は増加の一途を辿っています。

することは、卒業教育の充実と相俟つて重要であると考へております。また、診療面では診療各科との連携を重視し、獨協医科大学に貢献できる診療科運営に努めて参りたいと存じます。

野原裕前教授以来の当教室のモットーは「治せる医療の実践」です。これには脊椎外科のみならず、関節外科、スポーツ整形外科、手外科など整形外科の全領域にわたる質の高い外科医の育成が必須で、全力でこれに取り組む所存であります。就任後最初の仕事として、系統だった卒業教育システムの構築を進めているところでもあります。また、卒前教育にも十分な時間を割き整形外科の魅力を伝えることは、卒業教育の充実と相俟つて重要であると考へております。また、診療面では診療各科との連携を重視し、獨協医科大学に貢献できる診療科運営に努めて参りたいと存じます。

平成18年に本学に赴任いたしました際は単身で関東の地を踏むことになりましたが、本学には稲葉憲之学長(昭47)、福田健副学長(昭48)をはじめとした千葉大学同窓の先輩や同僚、また、北関東にはあな同窓会の諸先生も多く、数え切れないご支援をいただき、今日に至ることができました。そして、関東エリアでは高橋和久千葉大学教授(昭52)、加藤義治東京女子医科大学教授(昭53)、山崎正志筑波大学教授(昭58)、高相晶士北里大学教授(平成元)の4名の現役整形外科教授が活躍されており、私の教授就任に際して大きなご支援をいただきましたこともこの場を借りまして厚く御礼を申し上げます。

あな同窓会の先生方におかれましては、今後とも旧倍のご指導、ご鞭撻を賜れますようお願い申し上げます。私の就任のご挨拶とさせていただきます。

山梨大学医学部

放射線医学講座 教授

大西 洋 (昭33)



平成26年1月1付けをもちまして、山梨大学医学部放射線医学講座教授に就任いたしました。これまでお世話になりましたのはな同窓会の皆様にご挨拶申し上げます。

現在、山梨大学医学部放射線医学講座に就任いたしました。平成26年1月1付けをもちまして、山梨大学医学部放射線医学講座教授に就任いたしました。これまでお世話になりましたのはな同窓会の皆様にご挨拶申し上げます。

お声をおかけいただき、平成7年に助手として復学いたしました。内山曉教授からは核医学や小線源放射線治療の他、患者さんを大切に診療する基本を、荒木力教授からはCTやMRIの画像診断の基礎と臨床応用をご指導いただき、治療に役立つ研究のあり方の基本を身につけることが出来ました。

現在の放射線医学は学問的には画像診断学と放射線腫瘍（治療）学に明確に分かれ、講座としてもそれぞれ独立して存在している大学も増えてきておりますが、山梨大学では両者共存して講座を運営しております。自分自身も研修医時代に核医学を含む画像診断と放射線治療の両面から診療に従事できる環境に身を置けたことが、その後の研究歴に生かされたと考えています。

場の悪性度・活性度の評価病理組織、臨床経過、CTにおける造影度との関係」でした。平成12年に本学の放射線治療装置の更新の際には診断用CTとリニアックを一体化させた装置を開発し、高精度な体幹部定位放射線治療を世界に先駆けて積極的に行いました。特に1期非小細胞肺癌の定位放射線治療成績を多施設でまとめた研究成果によるその後の世界標準となり、国際的に最も汎用されているNational Comprehensive Cancer Network (NCCN)の肺癌治療ガイドラインにも引用されています。また肺癌や肝臓癌などの放射線治療における呼吸性移動の影響に関する研究を行い、独自の呼吸換気量モニタを開発した成果は山梨大学の知的財産として製品化され全国に普及しています。その他、学会活動として様々な新規照射技術のガイドライン作成や保険収載に携わりました。

今後は、画像診断においては新規画像撮像法やInterventional radiologyのデバイスの開発と臨床的意義の検討を、放射線治療においてはさらなる高精度放射線治療技術の開発と臨床応用を進め、より低侵襲で精

密な画像診断と治療方法の創出をキーワードに診療・研究に努めてまいりたいと存じます。また、今後の医療における放射線科医のニーズは急速に高まっており、放射線科専門医を多く育成

指導することが社会への貢献につながるかと考えております。のはな会の諸先輩におかれましては、ご指導ご鞭撻叱咤激励のほど今後ともどうかよろしくお願ひ申し上げます。

秘められた宝物

猪之鼻奨学会の歴史的資料
さらなるご支援による

新たな展開を祈願して

公益財団法人 猪之鼻奨学会会長

鈴木 信 夫 (昭47)

猪之鼻奨学会は、およそ1世紀の歴史を持つ、山梨大学医学部と薬学部の教官が管理運営してきた団体です。研究者と学生を支援すべく、数多くの諸先輩による無償の努力がなされてき

た、山梨大学としても大いに誇るべき組織なのです。その活動の財源については、これまた、数多くの方々の寄付金で賄われてきました。なお、一昨春には、公益財団化して、寄付行為については、税法上の特典が与えられることとなっておりま



す。お陰様で、公益財団としての組織維持は、事務局員の御努力もあり、順調に行い出しております。その事務局ですが、のはな同窓会



伊藤晴夫会長以下の担当者ならびに多くの寄付者により建立された、新のはな同窓会館のビルの一室へ引っ越しすることができました。それまでの旧のはな同窓会館内事務局は、廃屋同然なるうとしていた木造構造物でしたので、安心しての事務作業が可能となっております。これまで、のはな同窓会との関係は、財政上もお互いに助け合いながらの運営とのことでしたが、事務局の場が同じ建物内となり、今後も緊密に助け合うことがなされればと願う次第です。

料が存在することを再認識しました(写真参照)。すでに、その一部を猪之鼻奨学会発行の広報紙第18号(のはな同窓会会報第166号送付の際同封)にてお知らせしました。ご参照ください。それら資料には、猪之鼻奨学会の活動内容が記載されており、その内容から、おそらく、学術研究などの歴史の糸をほぐせる可能性を秘めていると推察する次第です。その作業が将来可能なためには、本公益財団を強固にする必要があるでしょう。そのためにも、今後とも、皆さまのご支援をお願いする次第です。

各地のものはな会 だより

東京のものはな耳鼻科医会

平成26年8月7日に例年開催しています銀座2丁目のホテルモントレにて第15回東京のものはな耳鼻科医会が開催されました。今回は勉強会としての講演を自由が丘で開業され、本会の幹事もされている笠井創先生(昭52)から花粉症の動向と、9月に女子医科大学主催の日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会のパネリストとして講演される口腔咽頭領域の局所処置の内容の一部について話していただきました。もう一人の講演は東京女子医科大学八千代医療センター耳鼻科科長となられた三枝英人先生(日本医科大学)より専門とされる、嚥下機能の基礎と嚥下障害の治療について、全身的なアプローチと耳鼻咽喉科的アプローチの両者についての有意義な講演をいただきました。

講演会後は例年通り笠井創幹事と私の司会で懇親会が開かれ、今年は50名強と多くの先生のご参加を頂きました。のものはな同窓会OBの先生、女子医科大学

医局員と研修医、関連施設である三井記念病院、都立駒込病院の先生方、八千代医療センターをはじめとする日本医科大学出身の先生方とも幅広い交流の場となりました。神田敬先生(昭35)から乾杯の発声やご挨拶をいただき、参加者の先生からの近況報告がなされました。会終了後には有志で2次会と流れさらに楽しい会となりました。出席者の出身大学は様々ですが、のものはな同窓会OB関係では卒年順に神田敬(昭35)、



森豊(昭37)、宮下久夫(昭38)、林崎勝武(昭44)、工藤典代(昭52・大阪大)、奥野妙子(昭52)、笠井創(昭52)、吉原俊雄(昭53)、和田二郎(昭53)、永田博史(昭57)、三浦巧(昭57)、大谷地直樹(昭58)、日野剛(昭58)、加藤雄一(昭58)、野本実(昭58)、中村宏(昭59・大阪医大)、三橋敏雄(昭59)、持田晃(昭59)、伊藤宏文(昭61)、藤原剛(昭63)、書間清(平元)、柴啓介(平2)、佐内明子(平3)、吉田耕(平3)、岩本容武(平5)、小林伸宏(平5)、小野健一(平12)、大和多優里(平19)、牧角祥美(平19)、吉原晋太郎(平21)、柳嘉典(平22)、黒川友哉(平23)が参加し益々若返った会となりました。1年に1度、夏の恒例の会として定着しましたが、また来年の夏さらに充実した楽しい会となるよう企画していくこととなりました。(吉原俊雄)

埼玉のものはな会

平成26年度の埼玉のものはな会は例年通り8月の第4日曜日の24日に「パレスホテル大宮」で開催されました。例年8月の末という酷暑

暑の中で行われますが、今年はいくぶんしのぎやすい、といっても当然最高気温は30度を超えた真夏日での開催でした。総会ではまず物故者の清水惟義先生(昭28)、針谷英世先生(昭25)に出席者全員で黙祷を捧げました。議事は支部長挨拶、会計報告、監査報告、ゴルフ部・支部誌編集部からの事業報告、本部報告、と滞りなく進みました。最後に長年にわたり埼玉支部を率いてこられた埼玉県支部会長伊藤敏夫先生(昭30)が支部会長退任の意向を表明されたことに伴い、後任として吉川広和先生(昭40)が推挙され満場一致で承認されました。また、本年度めでたく米寿を迎えられる有田文章先生(昭27)、井上幸万先生(昭27)、四家正一郎先生(昭26)、島田恒郎先生(昭27)、中島顕先生(昭26)、喜寿を迎えらる妹尾素淵先生(昭40)、三木亮先生(昭38)、根岸敬矩先生(昭39)に出席者皆でお祝いを致しました。

総会に続き、昭和大学医学部外科学講座乳腺部門教授中村清吾先生(昭57)、そして今年4月に千葉大学学長に就任された徳久剛史先生(昭48)のおふたりをお招きし特別講演が開催されました。中村先生からは「乳癌の診断と治療」最近の話題」と題し、乳癌診療について知っておくべき基本から最新の話題、ハリウッド女優のアンジェリーナジョリーの手術で話題になったBRCA遺伝子のことなど



や研究システムを構築していく研究大学として日本のリーダーとなるであろうとの将来展望を示され、会員一同大変意を強く致しました。

おしまいの懇親会では特別講演のお二人の先生を囲みながら、出席者の近況報告などを行いながら盛況のうち散会となりました。

出席者のお名前を卒年順、敬称略で記します。石井邦夫(昭26)、井上幸万(昭27)、高橋康(昭30)、伊藤敏夫(昭30)、新井多喜男(昭30)、森碧(昭31)、三木亮(昭38)根岸敬矩(昭39)、吉川広和(昭40)、赤井壽紀(昭43)、諏訪敏一(昭43)、伊藤進(昭43)、斎藤弘司(昭43)、済陽高穂(昭45)、大友一夫(昭46)、徳久剛史(昭48)、小川富雄(昭48)、野口哲夫(昭48)、五月女直樹(昭49)、木村純(昭49)、木村道雄(昭50)、井坂茂夫(昭51)、門山周文(昭51)、林田和也(昭52)、小林彰(昭52)、中村勉(昭52)、上野泉(昭53)、得丸幸夫(昭53)、吉澤卓(昭53)、渡辺恒家(昭54)、植松武史(昭55)、伊藤博(昭56)、中村清吾(昭57)、小宮山伸之(昭58)、杉浦敏之(昭63)、神宮和彦(山梨医大・昭63)、伊藤俊紀(川崎医大・平12)、

栃木透(平18)

(植松武史)

旧第二解剖学教室

O・B・O・G会

本年10月4日湯島ガーデンパレスで、旧第二解剖学教室O・B・O・G会が開催された。電子顕微鏡は今や研究方法の一部に過ぎず、微細形態学は単独では成り立たない。当時の昔話に花が咲き、楽しい時間を過ごすことが出来た。



写真右から

前列：豊田二美枝(昭42・茶女大理)、加濃正明(昭30)、永野俊雄(昭30)、浅見敦(昭30)、奥村康(昭44)
後列：岩倉弘毅(昭37)、高林克己(昭50)、伊藤光政(昭40)、神田敬(昭35)、永田一郎(昭35)、年森清隆(昭50・熊本大)、羽地達次(昭52・九州歯大)、前川眞見子(昭54・京大農)、金子光生(元J.E.O.L)、出澤真理(平元) (永野俊雄)

市川・浦安の は な 会

市川・浦安の は な 会 は、毎年秋に開催いたしておりますが、今年平成26年10月18日(土)に市川市「栃木屋」で開催され、12名が参加いたしました。秋山龍男先生の乾杯で始まり、東邦大学の島田英明教授から大森病院消化器センターの紹介があり、旧交を温めながら有意義な情報交換を交え、懇親を深めました。



写真右から

前列：加藤友衛(昭38)、秋山龍男(昭28)、松丸信太郎(昭31)、道場信孝(昭35)、木下敏子(昭38)
二列目：田中則好(昭40)、船津恵一(昭46)、篠塚正彦(昭51)、税所宏光(昭40)、角谷明子(昭57)
後列：西野卓(昭47)、島田英明(昭59) (加藤友衛、篠塚正彦)

西千葉医師の会

平成26年11月17日(月)、西千葉「鮎割烹みどり」にて恒例の西千葉医師の会を開催致しました。本年4月に千葉大学長に就任された徳久剛史先生以下、11名の参加者で和やかに行われました。当番幹事であるフロンティア医工学センター林秀樹教授から開会の挨拶、五十嵐辰男教授による乾杯の音頭で開会、まずは歓談となりました。潤間勸子先生のお父様が叙勲された直後のめでたい時期でもあり、話に花が咲きました。徳久学長からSuper Global Universityと今後の戦略、

神戸大学時代の懐かしいお話まで伺う事ができました。その後各自が各々の話題を提供し、お料理を美味しく頂きました。大型の競争的資金獲得による部局へのすばらしい効果のお話、多数の



写真右から

大変興味深いお話を御伺いする事が出来ました。最後に参加者で記念撮影を行い、次回からは予防医学センター所属の先生方もお誘いすることを約束し、散会となりました。

前列：鈴木昌彦(昭60)、五十嵐辰男(昭52)、徳久剛史(昭48)、今関文夫(昭54)、杉田克生(昭54)
後列：川平洋(平4)、野村純(平元・佐賀医大)、林秀樹(昭和60)、潤間勸子(平4)、大溪俊幸(平9)、吉田知彦(平9) (川平洋)

ク ラ ス 会

三二会 (昭31)

や、雨模様の後、平成26年9月20日(土)、JR錦糸町駅近くの東武ホテルパント東京にて午後4時半〜7時半開催された。参加者は12名である。

松丸信太郎君の司会で開会。はじめに物故者への黙祷を捧げた。今回は、船橋茂君(25年12月26日)、西沢護君(26年3月10日)、志村公男君(26年4月16日)である。続いて、事務局より会務報告。現在、会員は80名中35名(不詳・江連盛臣君)。次に、本年度春の叙勲(在外邦人枠)にて、旭日小綬章を受章した中澤弘君についてお知らせし、クラス一同として江戸切子のグラスを贈り、お祝いした。

中澤君は、かつて、クラス有志の推薦により、平成23年度なのはな同窓会賞功労賞を受賞されたが、今回多年にわたる日米医療交流促進功労について在米国日本大使館の推挙により受賞された。その後、中澤君より、受賞とお礼の挨拶がなされた。次に、辻輝蔵君と西原

太郎君よりご寄付があり、お見舞いの品をお送りした。次に、李保文彦君の乾杯の音頭に続き、しばし楽しく歓談、さらに、順に近況報告を開陳して、時間の経つのも忘れた。最後に、記念写真を撮り、諸兄のご健勝と来年の無事再開を祈念して、三献の手締めにて閉

会となった。
写真右から

前列：神尾鏡、北川定謙、中澤弘、香田真一、森博志
後列：李保文彦、庵原昭一、高澤五郎、加藤繁夫、白井敏雄、松丸信太郎、小野清四郎

(小野清四郎)



山紫会 (昭34)

卒業55年の集い

昭和34年(1959年)卒の我等山紫会は平成26年3月16日、ニューオータニ幕張で開催された。参加24名、殆ど全員が今年傘寿を迎えたことになる区切りの年。各自夫々の越し方を想い現在を語り合った。

級の中で異彩を放っていた館野の男兄が数年にわたる長患いのおとであったが逝去された。長いこと放医研の臨床部長にあり、幾多の斯界での輝かしい業績を残され「放射線医学史」の大著をはじめ「放射線と人間」など数々の啓蒙書を世に出されたことは特筆すべきことである。福島原発事故に関して対内的対外的に積極的な発言を望んでいたであろうと思うと残念でならない。山紫会は級を挙げて二十年、三十年目の区切りで記念になる企画を実行してきたが、山紫会全員参加の「医学思想の源流(西村書店)」の全訳出版を館野・榎本両君の熱意で世に出すことが出来たこと、故川喜田愛郎教授のおほめの言葉も思い出深い。私事であるが館野兄には医業の方

向づけに関して将来の核医学分野が世の中に大きく寄与することを学ばせて頂いたことに感謝している。併せて深く弔意を捧げたい。

傘寿にあつて植村研一兄が現在大きな公的病院の管理者として活き活きと仕事をしていること、小林充尚兄も産婦人科領域での四次元エコーの完成、妊婦さんの赤ちゃんと感激の対面を熱をこめて語ってくれたことも素晴らしい。当日なんとか元気だが所用欠席19名、連絡とれず3名、海外活躍中2名。厚労省の発表で健康寿命は男性71才、女性74才とさらに延びた由であるが我が山紫会の健康寿命は80才の舞台にあると、これは自賛である。

写真右から

前列：谷嶋俊雄、吉井功、津金澤督雄、野口徹男、植村研一、神田芳郎、松本博雄、藤田昌宏、伴野恒雄、吉川保雄
後列：坂田早苗、矢野柁多、田口勝、赤星至朗、野口夫人、飯田暢子、片山純男、飯田静夫、齋藤篤、小林充尚、遠藤幸男、松原保、塩川喜之、山本成元

(谷嶋俊雄)



のりはな37クラス会

(昭37)

五月晴れて真夏日となつた平成26年5月17日(土)

午後5時半より26年度のりはな37クラス会を、恒例の帝国ホテル東京で開催した。喜寿から傘寿前の齡だが、総じて元氣な姿を30名が見せてくれた。昨年のクラス会報告の末尾に「明年この会 健やかなる 誰かを知らんや 杜甫」と記したが、記念写真で筆者の隣に座っていた中山博君の具合が悪いと昨年11月末にテニス仲間の福土和夫君から電話があり、急遽、岩倉弘毅君とお見舞いに沼津市立病院へ。自院の現状と将来、かかりつけ患者の紹介、スタッフなど残してきた仕事を処理するためもう一度退院したいと息も絶え絶えに話していたが、強い握手の手を無理に離し、「頑張れよ、またね」と万感迫る辛い想いで別れた。翌朝急逝の知らせが来た。僕らに全てを話して安堵したのだろう。故中山君を含め18名の物故会員に先ず黙祷を捧げた。返信ハガキをファイルして供覧、欠席理由のコメントを見てもらった後に、勝田貞夫君(AKB37と銘打って、秋葉原の居酒屋「和が家」での

年4回のミニ37会の幹事役、酒を呑まないのに面倒見のよい兄貴分)の乾杯で開宴(同窓会プラン絢爛)。

前立腺がんを克服して現役で働く岩倉君の軽妙な司会で、アドリブ指名による全員スピーチに。フリードリリンクにも拘わらずワイン以外のアルコールと料理の消費量は激減、ビール注ぎもソフトドリンクへシフトし、会員諸兄弟の撰生、節食ぶりを垣間見た。省エネ現役または、第一線を引退後のシニアライフを淡々と自適に旅行、ゴルフや趣味などに打ち込むエンジョイライフを語る中であつて、何時も前向きな元国立がんセンターの松江寛人君は震災後福島に共同診療所を創り、放射線被曝の健康チェック通いと4月に彼が上梓した「がんでは死なない、再発をのりきる」納得できる対処のために「患者と家族の相談より」(保健同人社)について、彼のがん総合相談センターのセカンドオピニオンの体験から、生きがいとQOLを優先する再発がん患者の自己決定の道標を書いたと何時になくソフトタッチで語った。土井修君は聖路加国際病院退職後フルタイムで電子カルテによるフィルムレスの

放射線診断を楽しんで働いていると。伯野中彦君は連休中のキューバ旅行で観たキューバの共産主義生活に比し、今日財政赤字日本に警沢振りを嘆いていた。矢野靖子さんは将基面誠君が無医村医療貢献で保健文化賞を得たあの田野畑村を再訪、大震災にて田野畑村の有名な駅が消滅していたと驚嘆。平素は寡黙な人枝幸三郎君はアベノミクスの安倍首相(戦争体験のない)が進める集団的自衛権、憲法改正などを自己の戦中戦後の厳しい疎開、被爆体験、向こう三軒両隣りなど助け合いエピソードから、孫世代の日本国家の行く末を按じ、国のトップの責任の重大さを先の戦争体験を通じて熱く語りかけた。筆者も戦争引揚者なので共鳴し自己の引揚者体験を追加した。日浦利明君は介護老健施設長としてハモニカをもつてお年寄り慰問をし、昭和初期からの懐かしのメロディとその蘊蓄を披露、実演奏した。早々に出席返事の郡山の十林賢児君は消化器内視鏡専門医資格更新には学会主催のセミナー(於・福岡)に参加することが更新の条件となり、彼の施設が研修施設基準を維持するためには、専門医が彼を含



め2名に大震災後減じたため彼も参加せざるを得ない」と事前キャンセル。郡山市の医療現場は人的資源の回復がまだ不如意らしい。全員スピーチが終わったところで司会の岩倉君から、彼の出身地での「木更津甚句を鑑賞する会」(於・木更津富士屋 季眺)への粋なお誘いがあった。後日談が

め2名に大震災後減じたため彼も参加せざるを得ない」と事前キャンセル。郡山市の医療現場は人的資源の回復がまだ不如意らしい。全員スピーチが終わったところで司会の岩倉君から、彼の出身地での「木更津甚句を鑑賞する会」(於・木更津富士屋 季眺)への粋なお誘いがあった。後日談が

手に再会を約し散会。来年度のりはな37会は27年5月30日(土)を予約しました。また逢う日まで。

写真右から

- 前列・石山淳一、高井満、杉岡昌明、岩倉弘毅、油井真知子、森豊、安達恵美子、矢野靖子
二列目・土井修、中村嘉孝、黒岩璋光、小林總介、小野幸雄、伊東治武、山根友二郎
三列目・伯野中彦、本多満、瀬川襄、福土和夫、入枝幸三郎、吉川正宏
四列目・大野孝則、大原啓介、柳沢健一郎、高梨健治、日浦利明
最後列・松江寛人、砂倉瑞良、勝田貞夫、伊藤文雄 (杉岡昌明)

参旧会(昭39)

卒後50周年を祝う参旧会は、京都第二日赤病院でインターンをした鈴木守、塚田正男、深尾立の三人が幹事となり、新緑の京都観光を兼ねて5月11日に南禅寺近くの料亭旅館菊水に泊まる会としました。

五月晴れの京都駅八条口に集合し天竜寺に向かい、加山作造の雲龍図を特別拝観し、趣向を凝らした有名

な庭を楽しみ、当初予定の嵐山散策は観光客が溢れているため取りやめて旅館に入りました。

菊水での宴会は、この一年の物故者3名への黙祷を捧げてから始まりました。宴会参加者は総勢35名、うち夫人同伴が12組、菊水宿泊は23名です。京都インターン時代、金欠3人組は当時はやった芸者小唄を唄いながら先斗町界隈をうろつき、夢は舞妓さんをはべらす飲み会でした。その夢は卒後50年経って初めて実現し、美しい芸子さん3人と可愛い舞妓さん2人の踊りとお酌で飲む宴会となり、関東の無骨者達は大いに喜んでくれましたが、女性陣のご意見は不明です。開業医以外はほとんど定年退職者ばかりの近況報告は健康状況報告が多いのですが、それぞれ人生を充分楽しんでる様子でした。飛び入りの鈴木守夫人のフラダンスと関東一本締めでお開きとなりました。よく飲みよく喋った大河原君が亡くなったためか、部屋に戻って明け方まで飲み続ける二次会はなく、早くから皆寝ついたようです。翌朝は曇り空でしたが、菊水の素晴らしい庭を鑑賞しながら朝食を済ませ銀閣

寺に向かいました。銀閣寺では東求堂の特別拝観で与謝蕪村や池大雅の襖絵などのある通常観られない室内を案内して貰い、続いてお庭拝観では多数の修学旅行の学生達に混じったためか皆若返ってはしゃいで写真を撮りあいなどしていました。次の青蓮院では時間が少なくツツジの美しい庭や国宝の青不動像の絵などを急ぎ足で拝観し、昼食会場の八坂神社境内のいもぼうで有名な平野屋に到着。主人からいもぼうのいわれを聞かせて貰い、昔は安かったいもぼうが高くなったことに驚き、残り少なくなったクラス会費の心配など崎山樹永久幹事から聞かされて散会となりました。

来年の幹事は、崎山樹、遠藤毅および河野守正君が千葉で行うことになりました。50年前の東京オリンピックの年に卒業し、日本選手活躍とその後の日本の大発展を見てきましたが、次の東京オリンピックも皆元気で日本選手を応援したいものです。

写真右から
前列：深尾立、鈴木（永山）弓、永山（奥野）恵美子、舞妓、木内政寛、伊藤晴夫、舞妓、遠藤毅、高根健、塚田正男夫人

二列目：重松秀一夫人、深尾立夫人、計見一雄夫人、山下（竹内）明美、本村八恵子、秋草克彦夫人、山口正敏夫人、高根健夫人、山本弘夫人
三列目：芸妓、今野貞夫、阿部一憲、三浦徹蔵、宍戸英雄、芸妓、秋草克彦、計見一雄、鈴木守、林懐良夫人、芸妓
最後列：崎山樹、重松秀一、河野守正、塚田正男、三浦徹蔵夫人、宍戸英雄夫人、山本弘、山口正敏、万本盛三、林懐良



昭和43年卒クラス会

千葉大学医学部
進学50周年記念

私達の学年は昭和39年に千葉大学医学部に進学したクラスです。当時は留學生課程が有り、数名の留學生と一緒に。何と沖繩からの2名も留學生扱いでしたので隔世の感があります。第17回43年卒クラス会は9月20日（土）新装成った東京ステーションホテルで行い、44人の出席を得ました。今回は特別ゲストとして私達が学生の時に教授に成られた永野俊雄先生と橘正道先生の2名の基礎の先生をお呼びする事が出来ました。

開会宣言の後で物故会員の8名に黙祷をした後で、宴席に入りました。幹事長の盛克己君が挨拶をし、来賓挨拶と進み、後は久しぶりに会えた同級生同士の楽しい歓談と成りました。今回は遠くタイからバンロップ君が、上海からはヨンスン、林さん御夫妻の参加を得、沖繩からは仲尾、堀川両君が出席すると言う大きなクラス会を開催する事が出来、大いに旧交を温める事が出来ました。次回はや

はり新装成ったのはな同窓会館で再会しようと約束し、クラス会はお開きに成りました。

写真右から
前列：高岡邦子、神津玲子、藤塚万里子、林雅恵、永野俊雄先生、橘正道先生、鳥



居雅江、梶尾高根、網代成子、舟橋満寿子
二列目：千葉彌幸、栗山喬之、唐沢祥人、高山直秀、保坂忠成、斎藤弘司、堀井文千代、堀川義文、Sasaki Tomo、古山信明、宿谷正毅、蘭部友良、小山哲夫、青木靖男
三列目：中村宏、仲尾清、田中寿一、赤井壽紀、飯田秀治、竜崇正、長谷川洋機、和田源司、Pallap Charu Varthi、久野宗寛、北原宏
最後列：盛克己、岩間汪美、藤塚光慶、松清央、中嶋弘道、東紘一郎、滝川弘志、鹿島孝、鈴木秀、星野聡（中村宏）

開催予定の行事を
お知らせください
学会、研究会、
会など種々の行事開
催予定とその内容に
ついて同窓会事務室
へお知らせください。
本会報に掲載しま
す。なお、本会報の
発行月は1月、5月、
および9月です。

研修プログラム

小児科

千葉大学大学院医学研究院
小児病態学助教

「千葉大学小児科の特徴」

小児の一般診療から高度専門医療および3次救急までを担当します。アレルギー免疫、感染症、神経、血液腫瘍、循環器、内分泌、新生児の7つの専門班をおき、地域の診療所、県内の関連・協力病院・施設と密接な連携をとって、専門的小児科診療を展開すると同時に、小児科一般診療から先端高度医療および2次・3次救急診療までを担当します。

当科の診療の対象は、新生児期および小児期における内科疾患のみにとどまらず、先天性疾患や小児期に発症した慢性疾患で生涯にわたる診療を必要とする患者さんの全人的・包括的医療（成育医療）を行っています。

対象疾患は、一般病院のような急性疾患だけでなく、専門外来として、アレルギー疾患・膠原病・免疫不全症、血液疾患・白血病・腫瘍疾患、心臓病、新生児疾

落合秀匡 (平9)

患、感染症、神経疾患・発達のおくれ・てんかん、成長障害・内分泌疾患・糖尿病の専門診療を行っています。

・免疫・アレルギー・気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーなどの小児アレルギー疾患、小児膠原病、原発性免疫不全症。食物経口負荷試験。生物学的製剤。急速経口免疫療法。
・感染症・慢性・遷延性の呼吸器感染症、尿路感染症、上部消化管機能異常、免疫不全症の幹線管理、予防接種相談。
・小児神経：てんかん、脳炎・脳症、脳変性疾患、ミトコンドリア病、Goltz症候群
・血液、腫瘍：小児血液疾患、小児がん（白血病、悪性リンパ腫、固形腫瘍、脳腫瘍）、造血幹細胞移植。
・循環器：先天性心疾患、川崎病、そのほかの循環器疾患。
・内分泌：低身長・成長障害、性発達異常、甲状腺疾

害、性発達異常、甲状腺疾

患など内分泌疾患、小児糖尿病。
・新生児・低出生体重児、疾病合併母体から出生した児（院内出生のみ受け入れ）

「千葉大学小児科の研修内容」

千葉大学医学部附属病院小児科での研修の特徴は、他の一般病院での研修と異なり、高度な専門性を求められる希少な疾患や、集学的治療が必要な重篤な疾患を経験できることです。一般小児に関しては若干症例が少ないことは否めません。しかし後期研修の間に地域の基幹病院において一般小児疾患・新生児集中治療の経験をしつかり積むことができます。

1. 3ヶ月ごと4期の専門分野研修（各分野専門医による直接指導）
2. 小児科内セミナー／研究会への参加
3. 地方会での発表・論文作成（年2〜3回）
4. 全国学会参加（年1回程度）
5. 千葉東病院での腎研修（1週間）

小児科の一般研修が終わった後は専門班に属して、小児科専門医+サブスペシヤリティを持ち、臨床・基礎研究（大学院進学も含む）、学会活動などに参加し、サブスペシヤリティの専門医・資格を取得します。大学院への進学・学位取得後の留学を積極的に支援していきます。また臨床分野での留学も可能です。

医療法人社団誠馨会

千葉メディカルセンター

名誉院長・千葉大学医学部臨床教授

山本義一 (昭48)

病院の沿革

当院は、昭和41年4月川崎製鉄健康保険組合千葉病院として開設しました。開設にあたり千葉大医局より内科・外科・整形外科・眼科・歯科の5科の医師を派遣していただき、その後順次他の診療科の医師も派遣されるようになりました。

当初は主に川鉄の職員と家族の医療を担っていました。が、年々地域の皆様の信頼を得て右肩上がりに患者数が増加し、それに伴って増築を重ね平成9年には360床（現315床）となりました。平成15年川崎製鉄とNKKの合併に伴い「JFE健康保険組合川鉄千葉病院」と名称変更をしました。さらに平成23年10月健保組合から医療法人社団「千葉メディカルセンター」と変わりました。これを契機に病院の建替え計画が実現し、平成25年3月着工、

26年9月竣工、26年12月1日開院の予定です。

臨床研修病院としての取り組み

新医師臨床研修制度のスタートと同時に管理型（現基幹型）および千葉大の協力型病院となりました。基幹型としては今年度まで29名採用しており、近年は徐々に定員を増やし（27年度から10名）研修医の育成に力を入れる方針としました。中規模病院ではありますが、精神科以外の多くの診療科を標榜しており、プライマリーケアを中心とする初期研修にふさわしい病院であると思います。よい医療を提供するにはコミュニケーションが不可欠です。幸いにも当院では看護師をはじめとするコメディカルは協力的であり、各診療科の連携も良好で気軽に相談できるといふ風土があります。卒後研修といっても難

しく考えずに楽しい研修生活を送れるよう職員をあげて指導・支援しております。新病院では研修トレーニンングセンターを新設し、研修医のみならず看護師も含めて基本的な技術研修を行う予定です。また、従来からの当院の強みであるスポーツ医学、消化器、不妊治療をセンター化するのに加え、千葉中央メディカルセンターから循環器内科と心臓血管外科が転籍し心臓血管センターを新設します。このように新病院に相応しい診療機能を充実させていきます。

最後に平成26年9月末をもって私は院長職を退任し名誉院長となり、10月より景山雄介先生（昭58）が院長となりましたのでご報告いたします。今後ともよろしくお願いいたします。

千葉大からの派遣・出身医師
内科：瀧澤史佳（昭57、副院長）、市川治彦（昭58・群馬大、副院長）、小野寺誠（平元）、布施まさみ（平8）、天野佳子（平8）、福田吉宏（平9）、伊達みどり（平9）、

千葉メディカルセンター初期研修医採用実績

年度	基幹型研修医出身大学	人数
平成16年	千葉大、信州大	2名+協力型1名
17年	滋賀医大、三重大	2名+協力型3名
18年	筑波大、香川大	2名+協力型4名
19年	東海大、高雄医学大（台湾）	2名+協力型3名
20年	群馬大、新潟大	2名+協力型3名
21年	千葉大（2）	2名+協力型3名
22年	大分大、獨協医大	2名+協力型3名
23年	千葉大（2）、金沢医大	3名+協力型2名
24年	千葉大、北里大	2名+協力型2名
25年	千葉大（2）、秋田大、愛媛大	4名+協力型0名
26年	千葉大（2）、福島医大、岐阜大、金沢医大、北里大	6名+協力型2名



瀬座勝志(平11)、星野晋(平12)、齊藤昌也(平16)、新潟大、神経内科:新井洋(昭57)、山口美香(平3)、牧野隆宏(平14・三重大)、外科:山本義一(昭48、名誉院長)、高石聡(昭59、副院長)、佐久間洋一(昭60、弘前大)、岩崎好太郎(昭63・福島医大)、当間智子(平5・弘前大)、遠藤悟史(平16)、整形外科:森川嗣夫(昭56、副院長)、平山次郎(平3・東京医大)、藤田耕司(平4)、橋本将行(平7)、岩崎潤一(平11・群馬大)、山崎博範(平16)、佐藤祐介(平20・埼玉医大)、

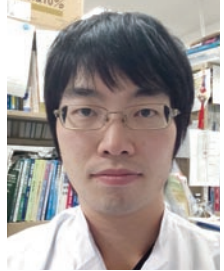
縄田健斗(平21・昭和大)、脳神経外科:景山雄介(昭58、院長)、角南兼朗(昭53)、和賀井望(昭57・北里大)、三ツ橋茂雄(昭63)、産婦人科:河田誠(昭50)、伊藤桂(平元)、嘉藤貴子(平2)、野田あすか(平19)、齊藤佳子(平20)、佐藤美香(平20)、秋山文秀(平23・金沢大)、小児科:鈴木裕子(昭56)、高橋喜子(平16・佐賀医大)、眼科:宮崎泉(昭54)、海保朋未(平19・日本医大)、泌尿器科:始関吉生(昭58)、形成外科:大森直子(平11)、皮膚科:田島綾子(平17)

研修医だより

後期研修に臨んで

千葉大学医学部附属病院神経内科

青 墳 佑 弥 (平24)



私は平成24年3月に千葉大学を卒業し、同年4月より千葉市立青葉病院で2年間の初期研修を行いました。平成26年4月より千葉大学医学部附属病院神経内科に入局し、今年度は同院にて後期研修を行っています。

大学病院に入院されてくる患者は市中病院では診断がつかないような疾患や稀少疾患の方が多いです。例えばPOMS症候群という末梢神経障害をきたす疾患は全国に400名程度の稀少疾患かつ難病ですが、その多くの患者が当科で行っている自主臨床治験を受けています。当然入院してくる方も多く、その治験に携わることで今後の新規治療法を開拓していく一端を担えることを嬉しく思います。

当科には現在28人の神経内科医が大学病院に勤務しており、教授の率いる末梢神経グループを筆頭に多くのグループに分かれて診療を行っています。その中で我々後期研修医は病棟業務を行ったり、ある期間には集中的に検査手技を学ぶ期間が設けられたりしています。病棟業務での後期研修医の受け持ち患者数は3〜5人程度と他の科と比較して少ないのですが、その分一人ひとりの患者に対して多くの時間をかけて診療を

行っています。また、ほぼ全ての患者にリハビリが必要となり、多くのコメディカルの協力無しでは治療が成り立たないのも神経内科の特徴です。

大学病院に入院されてくる患者は市中病院では診断がつかないような疾患や稀少疾患の方が多いです。例えばPOMS症候群という末梢神経障害をきたす疾患は全国に400名程度の稀少疾患かつ難病ですが、その多くの患者が当科で行っている自主臨床治験を受けています。当然入院してくる方も多く、その治験に携わることで今後の新規治療法を開拓していく一端を担えることを嬉しく思います。

自分が神経内科を決めた理由としては、神経症候学の面白さでした。麻痺、感覚異常などの神経学的症状と、腱反射などの神経診察所見から病変部位を照らしだすことがなによりも楽しかったのです。まだまだ未

熟な自分には知らないような神経症候を神経内科の諸先輩方に教えていただきながら診療を行っていく毎日を非常に楽しく感じています。

一方で、脳神経障害が引き起こす症状・症候は極めて多彩多様で、絶えず頭を悩まされます。正解となる治療法が確立されていない疾患も多い中で、周りの先生方にご指導いただきながら診療を行うことは自分にとって大変学ぶことが多いと実感しています。今は、まだまだ迷惑をかけてばかりですが、一日でも早く先輩方の一助となれるよう日々努力していこうと思います。

国立大学法人 千葉大学柏の葉診療所 東洋医学センター 平成26年10月15日(水)より再開

平成25年3月末から休診していた千葉大学柏の葉診療所が「千葉大学柏の葉診療所東洋医学センター」として自由診療の体制で再開いたしました。



生命のリレー

善意の献血に支えられた、生命のお薬。

皆さまの温かい想いが込められた大切なバトンを、必要とされる人たちへ、私たちがしっかりとつなぎます。

善意と医療のかけ橋

JB 一般社団法人
日本血液製剤機構
東京都港区浜松町2-4-1
http://www.jbpo.or.jp

追悼

追悼

本間三郎先生

ゲッティンゲン大学医学部教授
元運動神経生理部長

高野光司 (昭33)



第三代生理学教授、本間三郎先生は平成26年6月27日逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

本間先生は、大正12年4月1日長岡市で出生。長岡中学4年修了、旧制新潟高校を経て千葉医科大学を昭和21年卒業。普通の年限より3年程早く卒業されたことになる。卒業後、鈴木正夫教授の生理学教室へ入室。福田篤助助教授の第二生理学教授就任の後任として昭和27年おそらく本学卒として記録的な若さで助教授に就任された。

励まれた。先生はその頃「平衡回路法」を考案され、低周波治療学会の主要メンバーになられた。昭和27年ストックホルムのカロリンスカ・ノーベル神経生理学研究所のグラニツト教授のもとに留学、以後、自他共に許すグラニツトの高弟であった。先生ご自身および、我々弟子たちにも香港シンポジウム「筋感覚器」、第一回ノーベルシンポジウム「筋感覚と運動制御」など国際学会への参加、外国留学等広く門戸を世界に開かれた。3年ごとに開かれる国際生理科学連合会議、その他重要な国際会議には必ずと言えるほど出席発表され、昭和50年には、東京におけるシンポジウム「伸張反射への理解」に世界の碩学を集めて主宰された。

研究の主流は筋紡錘、脊髄運動系。臨床部門に進出する大学院生とは各器官からの感覚情報の研究に力をそがれた。日本生理学会の中心人物として生理学実習の充実にもお励みになり、日本生理学会実習指導書を編纂され、もちろん本学の神経生理学実習を充実された。昭和53年には日本学会会議第7部会員に当選、後に第13期同部長に就任された。その頃からは脊髄生理学から脳の情報生理学に転向され、昭和58年退官、次期中島祥夫教授に引き継がれ、また中島教授や学外研究者とも共同研究をされた。教授在任中、国内外の生理学教授10人、臨床教授5人以上が教室から輩出した。朝永振一郎のノーベル賞受賞発表の日のこと。第一生理学教室の食堂黒板に誰かが書いた。「祝朝永振一郎教授ノーベル賞受賞」その後誰かが「医学生理学賞は本間教授に」と書き足し、またその後で誰かが「来世は」と書き足した。夕方6時、期せずして教室員が黒板の前に集まった。本間先生は、「来世は、と書いたのは、実は私だ。…かつて私は助講会で、千葉大学医学部からは、百年間ノーベル賞は出ない、と言ってしまつて物議をかもしたことがある。」

先生は家庭にも才能にも恵まれた。ノーベル研究所

随一の手術者。スキーではどんな難所でも先生が転んだのを見たことがない。時々「東大脳研一派は」とか「エックルス(63年ノーベル賞)一派は」とおっしゃったのは、日本一や世界

熊谷信夫先生を偲んで

信州あのはな会会長

内藤 威 (昭48)



信州あのはな会名誉会長熊谷信夫先生は、平成26年7月22日86歳の生涯を閉じられました。

先生は昭和3年4月11日ここ信州伊那の地で生を受け、旧制松本高等学校を経て昭和28年千葉医科大学を卒業され、その後千葉大学医学部第一外科で研修を積み、昭和33年長野県立須坂病院に赴任されました。赴任当初は、医師は8名、一般、結核病床合わせても150床の小さな病院でした。昭和61年に病院長に就任され、平成6年までの36年間病院の発展に尽力され、

一を目指しておられたからだと思う。「来世」が仏教語なら、本間先生、安らかにお休みください。21世紀なら千葉大学医学部の後輩におまかせください。

63年に引き継がれ、以後会員の面倒を見つづけました。平成19年には待望の会誌「亥之鼻信州」を創刊し、我々後輩のため今後の会の道筋をお示しいただきました。先生は前産婦人科教授高見澤裕吉先生のテニスでの後輩で、その関係で私は産婦人科医として昭和59年よりお世話になってまいりました。先生の面倒見の良さは半端でなく、床屋はどこどこ、寿司屋はどこ色々教えていただきました。海外からの研修生には中国語会話教室を開いたり、ギョーザパーティーをしたりして交流を深めていました。何時までもたつても記憶力、情報収集力が衰えず、30年前に研修に来た医師の卒業年度から現在のことまでよくご存知でした。何しろ年賀状が毎年800枚以上のことでした。産婦人科の仕事に関しては何かあっても心配するなどおっしゃってくれましたので安心して診療出来ました。おかげ様で30年間母体死亡もなく、訴訟もありませんでした。これも先生のバックアップがあったからと思っております。

Advertisement for Protecadin (H2 receptor antagonist) by Taiho. Includes product names (Protecadin 5.10, OD 5.10), company name (Taiho Pharmaceutical), and contact information.

が、みな先生の人柄にひかれたのだと思います。現在大きくなった須坂病院も先生の「心の賜物」と思っております。また病院での中国旅行、毎年の南枝夫人の正月料理（熊谷家に暮れから三が日、医師、近所の人々などが集まる）、医局会後の料亭、カラオケ、など懐かしい思い出ばかりです。先生は若者たちが須坂で楽しめるようにいつも心を砕いておられました。先生のお宅には世界中の名酒が並んでおりました。あの強い中国のお酒をまた痛飲したかったです。

先生は我々後輩にとつて大きな岩のような存在でした。安心してつかまることのできる場所であり、またそそり立つ厳しい圧力を与えてくれる存在でもありました。心の支柱ともいえるべき大先輩を失ったことはとても残念でなりません。

私は、ここ一年ばかり老健施設「やすらぎ」で再び先生と一緒に仕事をさせていただきました。その厳正さはお変わりなく、どこに行っても、いつでも「若者に正しいことを教えるのが自分の役目だ」とおっしゃっていました。毎週施設の回診時にはご自身が一番具合が悪いのに、皆を元気づ

けておられました。人間の生き方、医師の生き方を身をもってわれわれに示していたのだと思います。長い

間ありがとうございました。どうぞ安らかにお休みください。

市川平三郎先生のご冥福をお祈りいたします

森山紀之（昭48）



市川平三郎先生（昭和23年卒、元国立がんセンター院長）がご逝去されました。（享年九十歳）

市川先生は、昭和23年、千葉医科大学を卒業、昭和24年に石川内科学教室に入局、その後、昭和29年9月1日より放射線医学教室に入局、当時第一内科に在籍されていた白壁彦夫先生とともに消化管二重造影法に関する研究をなされました。この当時は、第二外科教室には世界で初めて食道外科学術法を確立された中山恒明先生がおられ、千葉大学における消化器外科の黄金時代にあたり、これに加えての白壁、市川両先生の二重造影法による早期胃がん

の発見方法の確立は消化管領域における世界的な業績となりました。

昭和35年に、国のがんに対する対策を、国家的な観点から遂行する目的で、東京、築地の旧海軍病院跡に国立がんセンター（現国立がん研究センター）が設立されました。当時、がんの死亡数の第一位であった胃がんによる死亡数を減じるためには、まず、早期発見による早期治療が大切であるとの考えに基づき、市川先生は昭和37年4月に国立がんセンターの放射線診断部に赴くこととなりました。

この時、国立がんセンターの放射線治療部には、同じく千葉大医学部卒業の梅垣洋一先生が在職されており、国立がんセンターにおいて、放射線治療、放射線診断の黄金時代が築かれました。市川先生は昭和39年に研究所、集団検診部長、

昭和48年4月には放射線診断部長、昭和51年4月には国立がんセンター病院院長に就任なされています。

白壁先生、市川先生は、早期胃がんに関する診断方法の国内外での普及、教育にも熱心であり、国内外に多くのお弟子さんがいます。欧州、米国、豪州などの消化管の国際学会に出席すると、どの懇親会でも私が日本人だとわかると数多くの人が、私の周囲に集ま

って来て、市川先生に二重造影を教わった話をするのには驚きました。市川先生の消化管二重造影法に関する業績は、国内外で高く評価されており、昭和45年には朝日賞、昭和49年には総合医学賞を受賞、平成11年には、「消化器放射線診断学、特に胃がんの早期診断」についての功績で独国より日本人としては二人目の「レントゲン賞」を受賞しておられます。

著者は胃X線読影会で市川先生の読影を初めて目にした時のことは忘れられません。この読影会では、症例の結果はだれにも教えられておらず、研修医が読影をし、その後市川先生が読影を行うというものでした。先生の読影が始まると本当に我が目を疑う読影が

始まりました。最後には白板に胃の手術標本の絵まで書き、病変の広さ、形状を書いていき、「この範囲ががんで、この部分でがんで筋層にまで浸潤している」とまで説明をしていました。

最後に本物の切除標本が提示されるのですが、市川先生の書いた絵と寸分違わぬ写真でがんの大きさ、形状、浸潤部位も書かれた絵と全く同一のものでした。私は魔法でも見せられているような思いで、どうしてもこのような技術を習得したいと思ひ、市川先生の所で仕事をさせていただくことになりました。市川先生の指導は厳しいものですが、決して怒鳴るようなことはなく、理詰めで行い、教えてもらっている者が本当に理解できるような指導をしていただきました。著書に

関しては「胃X線診断の実際（金原出版）」をはじめ多数の著書があり、我々はむさぼるようにこれらの本を読み勉強させていただきました。私生活においては病院を離れると少年のような所があり、こよなく囲碁とゴルフを愛していました。囲碁はアマチュアの最高段位である七段を有しており、元

生、私と三人で碁を打つのを大変楽しみにしていたことが思い出されます。ゴルフについては「俺のゴルフは百獣の王だ」（つまりスコアが百十）などと言っていました。学術書の他には「ドクター平三郎漫遊記」など

とおもしろい著書もあり、医学関係以外の多くの方や患者さんからも大変慕われていました。人間的な面からも私たちは多くの影響を受けた先生でした。ご冥福をお祈りしたいと思います。合掌

AJINOMOTO.

成分栄養剤

イェンタル® 配合内用剤

ELENTAL® ●薬価基準収載

消化器関連情報の配信サイト AJIMed

http://www.ajinomoto-seiyaku.co.jp/ajimed/

★「効能又は効果」、「用法及び用量」、「禁忌を含む使用上の注意」等詳細は製品添付文書をご参照ください。

製造販売 味の素製薬株式会社

〒104-0042 東京都中央区入船二丁目1番1号

【資料請求先】 味の素製薬株式会社 ぐすり相談 0120-917-719

2010年4月作成 ED-JB54-C410-DNP

学生教育

2014年国際交流・学生留学報告

医学教育研究室
国際交流・医学英語プログラム担当

山内 かつ代 (平11)

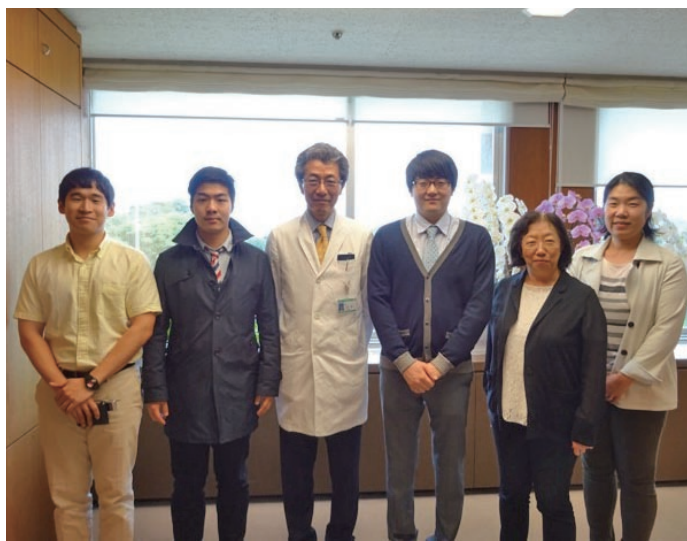
日本を取り巻く国際環境の変化において新興国の台頭などによる競争が近年激化する中、徳久学長主導の下、千葉大学は平成26年度文部科学省「スーパードグローバル大学創成支援」に採択された。医学部としてこれまででの取組実績を更に更に先導的試行に挑戦し、我が国社会のグローバル医療人を育成していくことが求められている。これまで医学部では平成20年度より海外協定校との病院診療参加型実習であるクリニカルクラックシップ(以下CC)交換留学、研究留学、臨床見学等のプログラムを構築し、千葉大学との協定校である米国・イリノイ州立大学シカゴ校、トーマスジェファソン大学、韓国・インジエ大学のほか、卒業生の主催するユタ大学放射線科、トロント大学呼吸器外科等と交流を行ってきた。今年度以降はドイツ・ライプツィヒ大学、シャリテ医

科大学、タイ・マヒドン大学、中国・天津中医薬大学、米国・ボストン小児病院、カリフォルニア州立大学アーバイン校移植外科等が加わった。平成26年度は派遣25名、受入6名の交流を行い、その数は年度ごとに増加している。また、協定校とは学生間のみならず教員間交流教育研修を積極的に行的、相互大学の医学教育発展に努めている。

医学部留学を推進する中の課題として、「高い英語コミュニケーション能力」および「英語による医学知識の理解」の必要性は年々高くなっており、客観試験(TOEFL, USML step)等)を確実にクリアすることが各国医学部留学の条件となっている。本学では平成25年度より留学を6年一貫医学英語プログラムのゴールの1つに位置付け、1年次から医学部在学中の留学をキャリアプランに含めた英語客観試験の実施と対策、

医学論文読解、模擬患者を使い実践に即した英語による医療面接・身体診察演習等を医学英語専任講師及び医師の協力により多面的に行っている。また、成績、英語能力等を基準に選抜したCC留学希望者(4-6年次)を対象に、「医学英語・アドバンス」を開講し、海外における実践を目的とした英語医療面接、身体診察の反復応用演習、症例プレゼンテーション演習を集中的に指導しており、本プログラムの経験した本学学生の派遣先大学からの評価は高い。

また、過去のCC留学経験者の50%は、卒業後、医師として海外留学・研修・研究を推進する初期臨床研修病院で研修しており、さらに初期研修後はCC留学経験者の50%が後期研修医として千葉大もしくは千葉県内病院の各領域で研究、診療に貢献しており、グローバル医療人としての活躍が期待できる。今後さらに派遣・受入留学が増え、その経験が学生の将来に生きることを臨むと共に、同窓会の諸先生方からの本プログラムへのご指導、ご支援を賜りたくお願い申し上げます。



Inje大学からの留学生と共に、左から3番目山本修一病院長、5番目朝比奈真由美先生、6番目山内かつ代

インジエ大学附属海雲台白病院 アレルギー内科/リウマチ科

医学部6年 金木 結佳

はじめに

私は2014年2月16日(2014年3月14日の約1か月で、韓国、釜山にある仁済大学海雲台白病院のアレルギー内科、リウマチ科で2週間ずつ臨床実習をする機会を頂いた。

留学を志望した主な理由は①学生のうちに海外の医療の現場を自分の目で見たい②英語でコミュニケーションをとりたい、という2つである。

海外留学は初めての経験であり出発前は不安でいっぱいだった。しかし、海雲台白病院で出会った先生方、コメディカルの方々、医学

仁済大学は5つの大学病院を持ち、その中でも海雲台白病院は2010年に開



アレルギー内科Park先生(左)と



仁済大学の学生と金木(左から2番目)

院し、最も新しい最先端の医療設備が備わっている。実習について

アレルギー内科もリウマチ科もほぼマンツーマンで指導して頂いた。回診、カンファレンス、論文抄読会への参加、検査見学、外来見学、講義を全て英語で行った。病院に図書室があり、そこで医学書やインターネットを利用して勉強することが出来た。

アレルギー内科では、気管支喘息、アレルギー性鼻炎、アナフィラキシーなどアレルギー疾患の発症機序や検査法、治療法、免疫の機序などについての講義を受け、毎日課題が与えられ、次の日までに調べて先生に英語でプレゼンテーションした。アレルギー検査とし

では、プリックテストや氣道過敏性検査、鼻鏡検査などがあり、プリックテストは私自身もやっていただいた。担当のDr.先生は非常に優しい方で、私のことを常に気遣って下さり、本当に良い先生にめぐり会えたとうれしく思う。

リウマチ科では外来見学が中心だった。新患者者については、先生とディスカッションしながら、患者の訴えや症状の現れ方などから疾患を推測した。関節リウマチ、全身性エリテマトーデスや強直性脊椎炎などの診断基準を再び英語で勉強した。

最後に

今回の留学では韓国の医療現場を実際に体験し、医学的な知識を得られたのは勿論のこと、将来の自分の医師像について考えたり、韓国の歴史や文化にも触れたりすることができ、非常に貴重な時間を過ごすことが出来た。英語でコミュニケーションをとらざるを得ない状況に身を置くことで、何とかして言いたいことを相手に伝えよう、相手の言いたいことを理解しようとするのは、英語力をつけるのにはもってこいの環境だったと思う。

今の時代、インターネットなどでたくさん情報を知ることが出来るが、やはり実際に自分の目で見て体験することに勝ることはないと実感した。

イリノイ大学シカゴ校 血液腫瘍内科

医学部6年 福田 磨育子

はじめに

今回、交換留学プログラムに参加させて頂き、イリノイ大学シカゴ校(UIC)にて4週間実習して参りました。はじめに、留学の準備から大変お世話になりました。はじめに、留学の準備から大変お世話になりました。はじめに、留学の準備から大変お世話になりました。

今回の留学に尽力してくださった仁済大学および千葉大学医学教育研究室の先生方、スタッフの方々に心から感謝しております。ありがとうございました。

実習内容

診療科は血液内科の入院患者を診るinpatient team、腫瘍内科のinpatient team、移植のblood & marrow transplant team、鎌状赤血球症を専門で扱うsickle cell team、そして私が実習させて頂いたconsultation teamの5つのチームによって構成されています。



FellowのDr. Zia(B&M Transplant team)とDr. Shergill(Consultation team)と。病棟での最終日に

成されています。Consultation teamは他科の入院患者についてコンサルトされた際に、評価を行い、治療方針を立てるチームで、血液内科と腫瘍内科の両方をカバーします。学生にはチームの一員として実際に評価し、治療方針を立てる事が求められています。

実習の一日は朝8時のモーニングカンファレンス

(研修医・学生向け)から始まります。その後、血液腫瘍内科へコンサルトのあった患者のリストを確認し、ラウンドまでの時間に自分で問診・診察を行って治療方針を考えます。HematologyとOncologyそれぞれのラウンドでは英語でケースプレゼンテーションを行い、アテンディング達と治療方針についてディスカッション



医学教育担当のProf. Tekian、一緒にUICへ行った内山君と

ンを行います。その後、最終的な治療方針についてカルテに記載し、実習の一日が終わります。実習期間中に約20症例を経験し、移植を扱うB&M transplant teamやsickle cell teamのラウンドにも同行させて頂く機会もありました。

生活について

シカゴ滞在中は大学キャンパス内のGuest houseで過ごしました。病院から徒歩5分の距離に位置し、近頃の駅から電車を利用すると約10分でダウンタウンまで出る事ができます。週末には現地で知り合った留学生達と観光を楽しむ事もできました。また、寮内はWi-Fiが完備されており、週末でも自室からカルテ閲覧や文献検索が可能でした。

おわりに

4週間という非常に短い期間ではありましたが、今後医師として自分がどのように働いて行きたいかを考える素晴らしい機会でした。日米で医師の働き方や医学士のあり方など様々な点で異なることが多かったように思います。UICの学生は非常にアセスメントを行う能力が高く、根拠に基づいた治療方針を短時間で計画する能力が高い印象を

ファイラデルフィアからの贈り物

医学部6年 山内 陽介

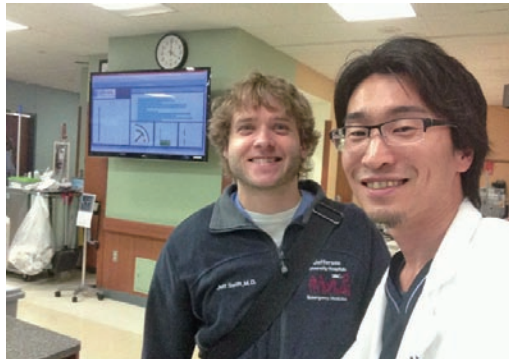
受けました。自分のプレゼンテーション能力の低さや医学英語の知識量の不足を痛感し、悔しい思いをする場面も少なくありませんでしたが、今後の良いモチベーションとなったように考えます。

有難いことに2014年5月にトマスジェファソン大学病院(TJUH)に滞在する機会を得た。それは4週間のプログラムで米国の救急科における診療の実際を観察するものであった。基本的に月曜日から水曜日はほとんどの時間をERに費やし、木曜日と金曜日は米国医学生やレジデント向けの講義やシミュレーションに参加していた。今回のERでの診療において全部で12回のシフトに入り、様々な主訴をもつ143例の診察を経験した。最も興味深かったことは、

日本と米国の医学教育システムの違いである。TJUHの医学生はまるで医師さながらの意思決定ができるように訓練されていた。米国の医学教育カリキュラムでは疾患についてだけでなく、症候に基づいた臨床推論スキルや検査のオーダー、入院や治療方針の決定を扱っていた。一方で日本の医学教育システムは疾患についての机上の知識についてはよく扱うが、臨床で応用可能な実践的な知識についてはあまり扱わない。今回のTJUHでの滞在は米国の医学生やレジデントが

どのように教育を受け、病院で働いているかを間近で観察する機会を与えてくれた。そして日本と米国間での医学教育システムの違いについて深く考える機会を与えてくれた。

米国の医学生は日本の医学生と全く異なっていた。明らかに彼らの社会的なスキルは優れており他の医療従事者や患者さんとの良好なコミュニケーションが築けていた。また彼らは多様なチームの中で働くことについてよく訓練されていた。JehHOPEと呼ばれる学生団体の活動（ホームレスの人達に学生が中心となり医療を提供）に参加した際に、彼らのチームビルディングスキルに非常に驚いた。そのチームは医学部入学前の学生からレジデントまで多様なメンバーから構成されており、皆初対面にも関わらず屋根瓦式にチームが有効に機能していた。彼らは多様性をチームから排除するのではなく、取り込むノウハウを持っていた。



ER研修最終日 Senior ResidentのJeffと共に

大学病院においては、米国の医学生は医療チームの一員として働いており、実際に病歴聴取、身体診察、症例プレゼン、カルテ記載を行うことで労働力として利用されており、実際の症例に基づいて指導を受けていた。学生への講義やシミュレーションは教育活動のローテーション期間にあるレジデントにより実施されており、現場で使える医学知識について教育を受けていた。

医学教育は全米で標準化されていた。米国の医学生はFSMB/NBMEといった機関により質が担保されており、レジデンシープログラムもACGMEにより質が担保されていた。全米での医学教育の標準化は良質な学習教材の発展に寄与して

いた。医師は全米で統一された良質な教育を受けるため、誰が優秀かが一目瞭然であり、病院間で人材の移動が容易であり、標準化された医学教育をより良いものとするために共同して取り組むことが可能であった。最後に、今回の臨床留学

Boston Children's Hospital 研究留学

医学部5年 宮崎 裕大

ボストン子供病院 (Boston Children's Hospital: BCH) はアメリカ合衆国マサチューセッツ州の州都であるボストンにあります。BCHはハーバードの関連病院であるうえに、US Newsでベスト子供病院に選ばれるなど、全米でも研究・臨床共にトップレベルのすばらしい病院です。

研究室について

本プログラムでは、千葉大学を卒業された高橋恵美先生に師事することが出来ます。高橋先生のご専門は脳の発生 (Diffusion Tract Imaging (DTI) と呼ばれる技術を習得することが出来ます。DTIはMagnetic Resonance Imaging (MRI) の一種であ

の現実化にご尽力いただいたTJU日と千葉大学の全ての方に感謝を示したい。フィラデルフィアには仲間への愛の街という意味があるが、今回の得難い経験はまさしく、医学を共に学ぶ仲間、フィラデルフィアからの贈り物である。

る拡散強調画像を用いて神経繊維の走行を可視化する技術です。この技術は拡散強調画像が水分子の動きやすさを反映することを応用しており、高橋先生の研究室では通常臨床で行われているものよりも高解像度で計測できます。

私は高橋先生の研究室ではヒトの胎児の脳の発生に関するテーマをいただきます。まず死産した胎児の



研究室のある建物

脳を特殊な拡散強調画像で撮像します。そこで得られたデータを用いて神経繊維の走行を描写するのですが、何も加工していないデータではすべての神経投射が描画されてしまいます。そこで、自分の興味がある神経投射が通る部位をRegion of Interest (ROI) として指定します。例えば、皮質脊髄路を描画したい場合には、一次運動野や内包後脚をROIとして指定すれば、自分の興味のある神経投射だけを描画することが可能です。

現地での生活について

平日は朝9時半頃に研究室に行き、6時頃には帰宅するという生活を送っていました。その中で、昼食時に開催される病院での画像カンファレンスに出席したり、Martinos CenterというMassachusetts General

Hospital (MGH) と Harvard-MIT Health Sciences & Technology (HST) が母体となる研究施設を見学もさせていただきました。Martinos CenterはMRIやCT、magnetoencephalography (MEG)、PET/CTにはPositron emission tomography (PET) などの医療画像において世界トップレベルの研究機関です。9Tという強磁場のMRIや一基3億円もするMEG設備など施設が充実していることはもちろんですが、さらにはMEGを世界で初めて開発したProf. David Cohenにお会いできるなど非常に印象的です。住居は自分自身で手配することが必要となります。私はWEBから個人的なホームステイを申し込んだところ、先に送金してしまったため詐欺にあってしまいました。ボストンは宿泊施設が非常に高いので十分に検討することが必要です。

昼食は研究室に隣接する病院のカフェテリアなどを利用する



研究室のメンバーと。左から2人目が高橋先生。右端が宮崎。

ことができます。コーヒーを頼んでも一食\$7-9程度で食事をする事ができます。アメリカの物価は日本と同じような物価です。自炊する場合は肉類が非常に安いです。

最後に

研究に少しでも興味をお持ちの方には非常におすすめるプログラムだと思います。ハーバード大学という世界トップクラスの環境を一ヶ月という短い期間ですが、体験できるのは非常に貴重だと思います。また高橋先生は産後直後にも関わらず私や他の学生の面倒を見てくださるほどバイタリティーにあふれる方で、とても楽しく一ヶ月間研究をさせていただきました。

Inje 大学夏季 Problem Based Learning (PBL) プログラム報告

医学部3年 相田 翠

入学当初から留学に興味があり、TOEFLやTOEFL iBTも自主的に受験して来ました。昨年度より3、4年生でも応募できる本プログラムが設置されたので、参加したいと考えていました。

3年生での応募を決意した決め手は一緒に授業を受けるInjeの学生が3年生であることでした。また、本プログラムに昨年参加した先輩方からの情報を元に持ち物や勉強の準備をすることができました。

日本と韓国は時差も無く、夏の釜山は気候も千葉と似ているため過ごしやすかったです。

釜山タワーにほど近い都市部、南浦に宿を取って宿泊しました。

【8月16日】

PBLに参加する5人で右教授にお会いしました。夜はPBLで私たちと同じ班になっているInjeの学生の中から有志5名が親睦会を企画してくれ、総勢10名で繁華街である西門へ行きました。

【8月18日】
問診、身体診察、Cmap作成
PBLは通常6人を1グループとして行われます。午前中は、まず模擬患者(Standardized Patient (SP))を15分間問診します。問診が終わると2度目の診察について話し合います。再びSPに問診と身体診察をします。今回の主訴はリンパ節腫脹で、喉を見たりリンパ節を触診しました。午後は5問のMultiple-Choice Questions (MCQ) (制限時間10分)を受けた後、学生だけでdiscussionです。皆で直前に受けたMCQの解答を作って提出した後、午前中に得た情報を整理しながらCmap (概念マップ)を途中まで作成しました。

【8月19日】
(Cmap完成)
1日目と同様、まずMCQ受験と解答作成を行います。その後Learning Goal調べた内容を発表し合い、それを元にCmapを完成させました。
【8月20日】

午前中はInjeの学生が受講している血液・腫瘍学の講義を見学しました。
(検査データ開示、Schema作成)

午後のPBLは、やはりMCQ受験と解答作成から始まります。その後、血液検査、胸部CT、PET CT、リンパ生検の結果が与えられました。これらの検査データを元にSchemaの作成に入ります。

【8月21日】
午前中は釜山博物館を訪問し、韓国の歴史、釜山の歴史を学びました。午後は血液標本を顕微鏡で観察する実習に参加しました。

した。10X顕微鏡を観察するのは初めてで、貴重な体験になりました。
(Schema完成)
Learning Goal調べた内容を発表し合い、それを元にSchemaを完成させました。

【8月22日】
(告知、発表会)
午前中はSPへの告知とdiscussionをしました。discussionでは、今回のSPが今後抱える社会的問題を挙げて議論しました。午後は各班の代表者が自分の班のSchemaを発表します。私も前へ出て発表させて頂きました。

【8月23日】
3年生は、Injeの学生たちと昼食を取った後別れを惜しみながら帰国の途に就きました。
Injeの学生たちの積極性、英語力、推論力の高さに刺激を受け続けたPBLでした。病態の原因を掘り下げていく思考プロセスは臨床に即しており、それを経験でき



Inje 大学同窓会長を囲んだディナーにて。中央列が千葉大からの参加メンバー。右端が相田。

【8月23日】
3年生は、Injeの学生たちと昼食を取った後別れを惜しみながら帰国の途に就きました。
Injeの学生たちの積極性、英語力、推論力の高さに刺激を受け続けたPBLでした。病態の原因を掘り下げていく思考プロセスは臨床に即しており、それを経験でき

たことは今後臨床の講義を受ける上でプラスになったと感じています。
Injeの学生たちは大変親切で、長い時間を共にする中で、将来の医師像や互いの国の文化についても話が及びました。彼らのおかげで非常に実のある留学になりました。感謝したいと思います。

大学)から、「いま医科学研究者にとって留学とは？」というテーマで、留学に纏わる実務的な内容をお話いただきました。留学を考えている人には勿論、そうでない人にも勉強になりました。その後は学生によるポスター発表が行われ、本学からは谷口が発表いたしました。今年は発表者の数が13名と例年より減ったものの、各ポスターの前では活発な議論が交わされました。夜は夕食会と懇親会で、学生と教員を交えて、大学生活のこと、研究のこと、今後のキャリアパスのことなど、様々なディスカッションが遅い時間まで繰り広げられました。
明けて二日目は、特別講演一つと口頭発表が行われました。特別講演3では、仁田亮先生(理化学研究所)から「私のキャリアパス」というテーマで、卒後の数回のターニングポイントでの決断のお話などを伺いました。自分達にとって身近な話題も多く、大変参考になりました。続いて学生による口頭発表は、5大学の代表者が10分間ずつ発表し、本学代表としては谷口が発表いたしました。どの大学の発表も大変素晴らしく、質疑応答も盛り上がり、参

2014年度 関東研究医養成コンソーシアム 第五回 夏のリトリート 開催報告

医学部3年 谷 口 絢

平成26年8月14、15日の二日間にわたり、「関東研究医養成コンソーシアム・第五回夏のリトリート」が、ホテル東京ガーデンパレスにて開催されました。本リトリートには、従来の四大学である東京大学、群馬大学、山梨大学、千葉大学に加えて、横浜市立大学、東北大学、金沢大学を合わせた七大学から、教員十六名、学生四十名が参加しました。

深澤嘉樹さん、吉岡正揮さんでした。

本学からの参加者は、代謝生理学三木隆司教授、粘膜炎疫学坂本明美先生、医学部五年高崎敦史さん、医学部三年谷口絢、医学部二年邵東鉦さん、坪坂歩さん、医学部一年杉田明穂さん、

一日目は、参加者の紹介ののち、特別講演二つとポスターセッションが行われました。特別講演1では、水島昇先生(東京大学)から「オートファジーの分野について」というテーマで、横断的研究とMD研究者について」というテーマで、研究分野について非常に分かりやすくお話いただき、MD研究者としての興味深いご経験をお聞きすることができました。低学年の医学生でも理解できる内容で、視野を広げることの重要性を感じさせられました。続いての特別講演2では、倉知慎先生(ペンシルベニア

明けて二日目は、特別講演一つと口頭発表が行われました。特別講演3では、仁田亮先生(理化学研究所)から「私のキャリアパス」というテーマで、卒後の数回のターニングポイントでの決断のお話などを伺いました。自分達にとって身近な話題も多く、大変参考になりました。続いて学生による口頭発表は、5大学の代表者が10分間ずつ発表し、本学代表としては谷口が発表いたしました。どの大学の発表も大変素晴らしく、質疑応答も盛り上がり、参



加者は皆刺激を受けることができたと感じます。閉会式後に、希望者は東京大学でのロボットに参加しました。

二日間のリトリートを通して、研究に興味を抱いている学生が一同に会し交流を深めることができるだけでなく、プレゼンテーションスキルの改善に繋がったり、研究で活躍されている先生方にじかにお話を伺うことができ、モチベーションアップに繋がったりと、大変に有意義な時間を過ご

すことができました。これを「楽しかった」だけで終わらせることなく、医学研究者になるという目標をより明確にし、今後の学習に繋がればと思います。

来年度は8月17、18日に都内にて開催予定で、本学が主幹校として準備・進行を担うことになっております。様々な形でご支援いただくことがあると思われませんが、どうかよろしくご支援、ご指導、ご鞭撻いただければ幸いです。

参加無料

予約不要

千葉大学病院 市民公開講座

「みんなで考えよう—これからのがん治療」

日時 2015年1月25日(日) 13:00~16:10
 (患者会ブース展示開始・診療科紹介パネル設置は12時から)
会場 京葉銀行文化プラザ 6階「櫻(けやき)」

- 開会挨拶** 病院長：山本修一
- 基調講演 1** 千葉県が推進するがん対策
 松尾晴介(千葉県健康福祉部健康づくり支援課課長)
- 基調講演 2** がん患者が直面する課題—がん相談支援センターに寄せられた相談内容から
 笠井亜紀(附属病院がん相談支援センター)
- 基調講演 3** がん患者が直面する課題—患者の視点から
 阿南里恵(NPO法人キャンサーネットジャパン・厚生労働省がん対策推進協議会委員)
- 総合討論** 「がん患者が直面している諸問題」
 司会：長嶋健(千葉大学病院)
 滝口裕一(千葉大学病院)
 パネリスト：齋藤とし子(アイビー千葉)
 五十嵐昭子(NPO法人支えあう会「a」)
 金井弘子(ねむの会)
 藤田敦子(NPO法人ピュア)
 鈴木敬子(オレンジ・リーフ)
 坂本佳子(千葉大学病院・ソーシャルワーカー)
 鈴木のり子(千葉大学病院・看護師)

閉会挨拶 千葉大学病院副病院長：高林克日己

主催 千葉大学医学部附属病院
 千葉大学大学院医学研究院
 (がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン)

お問い合わせ・連絡先

TEL: 043-226-2806
 千葉大学医学部 先端化学療法学(担当: 庄司)
 受付時間/10:00~16:00(土曜・日曜・祝祭日を除く)

千葉大学病院ホームページ (<http://www.ho.chiba-u.ac.jp/>)

参加無料
予約不要

千葉大学病院 市民公開講座

「みんなで考えよう—これからのがん治療」

日時 2015年1月25日(日) 13:00~16:10
 (患者会ブース展示開始・診療科紹介パネル設置は12時から)

会場 京葉銀行文化プラザ 6階「櫻」

開会挨拶 病院長：山本修一

基調講演 1 千葉県が推進するがん対策
 松尾晴介(千葉県健康福祉部健康づくり支援課課長)

基調講演 2 がん患者が直面する課題—がん相談支援センターに寄せられた相談内容から
 笠井亜紀(附属病院がん相談支援センター)

基調講演 3 がん患者が直面する課題—患者の視点から
 阿南里恵(NPO法人キャンサーネットジャパン・厚生労働省がん対策推進協議会委員)

総合討論 「がん患者が直面している諸問題」
 司会：長嶋健(千葉大学病院)
 滝口裕一(千葉大学病院)
 パネリスト：齋藤とし子(アイビー千葉) 五十嵐昭子(NPO法人支えあう会「a」)
 金井弘子(ねむの会) 藤田敦子(NPO法人ピュア)
 鈴木敬子(オレンジ・リーフ) 坂本佳子(千葉大学病院・ソーシャルワーカー)
 鈴木のり子(千葉大学病院・看護師)

閉会挨拶 千葉大学病院副病院長：高林克日己

主催 千葉大学医学部附属病院
 千葉大学大学院医学研究院
 (がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン)

お問い合わせ・連絡先
 TEL: 043-226-2806
 千葉大学医学部 先端化学療法学(担当: 庄司)
 受付時間/10:00~16:00(土曜・日曜・祝祭日を除く)

千葉大学病院ホームページ (<http://www.ho.chiba-u.ac.jp/>)

CHIBA

千葉の医療を支える一人に!

ちばのドクター応援します!

千葉県地域医療支援センター
(千葉県医師キャリアアップ・就職支援センター)

ハートマッチングな求人情報サイト

千葉県 ドクターバンク

あなたの復職を支援します

女性医師 就業支援相談窓口

千葉県ドクターバンクとは
千葉県内の医療機関とドクターの皆さまをつなぐ、
ドクターのための無料職業紹介機関です。
ご登録されたドクターの皆さまに、
千葉県内医療機関の求人情報を公開し、
求職のお手伝いをしていきます。

「千葉県ドクターバンク」ご登録はカンタン
<https://www.chiba-dr-bank.org/>
さまざまなサポートが受けられます。



女性医師等就業支援相談窓口はお仕事と家庭の
両立をめざす女性医師のための相談窓口です。
さまざまなお悩みやご相談に、現役の先輩医師や
職業紹介責任者がアドバイスをします。
また、保育サービス、技術研修病院の
紹介も行っています。

「女性医師等就業支援相談窓口」について
詳しくはこちらをご覧ください。
<https://www.chiba-wssoudan.org/>
さまざまなサポートが受けられます。



千葉県PRマスコットキャラクター チーバくん

お問合せ・事務局



NPO法人千葉医師研修支援ネットワーク

〒260-8677 千葉県千葉市中央区玄鼻1-8-1 千葉大学医学部附属病院 教育研修棟2階
TEL. 043-222-2005 FAX. 043-222-2733 厚生労働省 無料職業紹介事業許可番号 12-4-300012

<https://www.dcs-net.org/>



千葉県許諾 第A305-6号

学内情報

の の は な 同窓会 支援

第9回亥鼻キャンパス留学生交流会

救急集中治療医学 織田 成人
生命情報科学 田村 裕

第9回亥鼻キャンパス留学生交流会 出席者集計

	医学部	薬学部	看護学部	千葉県がんセンター	国際教育センター	その他	計
留学生	27	25	7	4	0	8	71
留学生の家族	8	4	1	0	0	0	13
その他	12	14	17	0	2	8	53
計	47	43	25	4	2	16	137

出身国	医学部	薬学部	看護学部	千葉県がんセンター	国際教育センター	その他	計
中国	19	15	4	1		2	41
インドネシア	1	2	2			1	6
台湾	1					3	4
タイ		4	1				5
バングラディッシュ	3	1		3		1	8
マレーシア		1					1
フィリピン		2					2
スリランカ	1						1
ネパール	1						1
韓国	1						1
スペイン						1	1
計	27	25	7	4	0	8	71

留学生の出身国は、中国・台湾・韓国・インドネシア・スリランカ・タイ・ネパール・バングラディッシュ・フィリピン・マレーシア・スペインであり、お国訛りならぬお国言葉（自国語）での話に花が咲いていました。

今年度は、亥鼻地区の留学生担当教員（織田成人教授、戸井田敏彦教授、田村裕准教授、野崎章子講師、菅波晃子特任助教）、学務係（医学部・加藤美由紀氏、薬学部・渡邊美雪氏、看護学部・山田真規子氏）、インターナショナルサポートデスク（渋谷圭美氏）が、木村定雄・西山真理子両先生（第1回〜8回）のご指導を仰ぎながら、見様見真似で実施したため、至らぬところが見受けられたもの、お陰様で、無事に交流会を終えることができました。

これも一重に、の の は な 同窓会・薬学部後援会・看護学部同窓会・医学部有志からの多大なるご支援とダンスサークル「舞部」（顧問・田中裕二准教授）によるご協力の賜物と思っております。

また、ご多忙にもかかわらず、毎年、ご参加を頂いております。見城悌治准教授（国際教育センター）、風間純一郎氏（東京芸術大学）、菱垣雄介氏（ジヨブストリート社）にお礼申し上げます。

平成26年7月18日（金）、亥鼻キャンパスに集う留学生・教職員等の交流を深めるために創設され、毎年の恒例行事となりました「の の は な キャンパス留学生交流会」：International Student Festival in Inohana Campus」を開催しました。

交流会は、新築された「の の は な 同窓会館」の清潔で広々としたホールに於きまして、織田成人教授（医学部）の開会の辞に続き、戸井田敏彦教授（薬学部）・宮崎美砂子教授（看護学部）・村岡英裕教授（国際教育センター）を開催しました。

交流会は、新築された「の の は な 同窓会館」の清潔で広々としたホールに於きまして、織田成人教授（医学部）の開会の辞に続き、戸井田敏彦教授（薬学部）・宮崎美砂子教授（看護学部）・村岡英裕教授（国際教育センター）を開催しました。

記念撮影の後、木村定雄名誉教授（本交流会の創設者・グラッドフェロー）の乾杯のかけ声により、料理をはさんでの歓談が始まりました。

レモニーで幕を開けました。

この度も一重に、の の は な 同窓会・薬学部後援会・看護学部同窓会・医学部有志からの多大なるご支援とダンスサークル「舞部」（顧問・田中裕二准教授）によるご協力の賜物と思っております。

また、ご多忙にもかかわらず、毎年、ご参加を頂いております。見城悌治准教授（国際教育センター）、風間純一郎氏（東京芸術大学）、菱垣雄介氏（ジヨブストリート社）にお礼申し上げます。



亥鼻祭

2014年度亥鼻祭実行委員長
医学部4年 松村 凱



2014年度亥鼻祭についてご報告させて頂きます。

亥鼻祭は今年度復活して12周年を迎えることができました。亥鼻祭は11月1日と2日に開催されました。1日目は生憎の大雨で来場者が非常に少なかつたのですが、2日目は天気も盛り返し、約2700名の方々にご来場頂きました。こうして亥鼻祭が続いておりますの、の の は な 同窓会会員

の皆様を始め多くの方々のご協力あつてのことと存じております。実行委員一同、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

当日、記念講堂前はステージ上での演奏や、各部署ごとの出店テントで賑わいました。また看護棟内では様々な企画が催され、身体ふしぎ発見はブース毎に委員が超音波検査や動物の臓器を使った医療系キャンパ

スならではのデモンストレーションを行い、看護ノスタメ企画では看護学部の学生が日頃の成果を遺憾なく発揮し、来場者の方々に看護技術を丁寧に解説していただきました。また今年には受験相談が大盛況で、廊下には長蛇の列ができあがり、場内整理に苦労いたしました。そして薬学部棟でも卒業生の方々による若手医療職の生の話を聞けるブースや、ACLS受講生による応急救護体験ブースが開かれていました。

大学祭は在学生だけのものではなく、地域の方々、卒業生の方々、ご家族の方々、はたまた未来の千葉大生と繋がることのできる貴重な場であると考えております。そのような大学祭が続くこと自体に意味があると思えますし、末永くこの亥鼻祭が開催されることを切に願います。これからも亥鼻祭を温かく見守って頂き、毎年足をお運び頂ければ幸いです。

尚、ご寄附を頂きました方々へは御礼が遅れました大変失礼致しました。後日詳しい企画の内容等に関しましての報告書及び御礼状をお送り致します。今後とも亥鼻祭をよろしく願致します。

第57回 東日本医科学生総合体育大会 夏期競技結果

	優勝	準優勝	第3位	千葉大学医学部順位
硬式野球	東京医科大学	聖マリアンナ医科大学	獨協医科大学	2回戦敗退
硬式テニス (男子)	北里大学	信州大学	日本大学	予選敗退
硬式テニス (女子)	東京医科大学	杏林大学	筑波大学	予選敗退
ソフトテニス (男子)	新潟大学	山梨大学	福島県立医科大学	予選リーグ敗退
ソフトテニス (女子)	秋田大学	群馬大学	獨協医科大学	予選リーグ敗退
卓球 (男子)	山形大学	北海道大学	順天堂大学	ベスト16
バレーボール (男子)	旭川医科大学	信州大学	順天堂大学	第4位
バドミントン (男子)	旭川医科大学	筑波大学	千葉大学 帝京大学	ベスト4
バドミントン (女子)	札幌医科大学	秋田大学	聖マリアンナ医科大学 東京女子医科大学	ベスト8
サッカー	千葉大学	筑波大学	順天堂大学	優勝
バスケットボール (男子)	慶應義塾大学	東邦大学	北海道大学	ベスト8
バスケットボール (女子)	聖マリアンナ医科大学	日本大学	秋田大学 昭和大学	初戦敗退
剣道 (男子)	秋田大学	順天堂大学	群馬大学	予選リーグ4位
空手 (男子)	札幌医科大学 慶應義塾大学	自治医科大学	旭川医科大学 東京医科大学 山梨大学 防衛医科大学	入賞なし
弓道	信州大学	新潟大学	秋田大学	入賞なし
水泳 (男子)	慶應義塾大学	東北大学	群馬大学	入賞ならず
水泳 (女子)	東京女子医科大学	筑波大学	慶應義塾大学	入賞ならず
ヨット	東北大学	慶應義塾大学	横浜市立大学	第5位
ゴルフ (男子)	群馬大学	東京慈恵会医科大学	聖マリアンナ医科大学	第21位
ゴルフ (女子)	北里大学	杏林大学	慶應義塾大学	第14位
ラグビー	信州大学	獨協医科大学	日本大学	ベスト4
第57回 東日本医科学生総合体育大会 夏期競技結果総合ポイント				
第1位	第2位	第3位	千葉大学医学部順位	
慶應義塾大学	秋田大学	順天堂大学	12位/36校	

個人成績
 卓球 (男子) シングルス…ベスト16：山中崇寛 ベスト32：川瀬勝隆
 剣道 ベスト32：芹澤悠太
 弓道 個人男子優勝：井田友明
 水泳 (男子) 800m自由形 第7位：宮崎文平 200mバタフライ 第8位：堀内捷義
 水泳 (女子) 50mバタフライ 第4位：齋藤瑞恵 100mバタフライ 第7位：齋藤瑞恵
 陸上部 (男子) 800メートル準決勝進出：山本峻大 走高跳決勝：荒木貴裕 9位タイ
 ソフトテニス (男子) ダブルス：ベスト16 菅澤駿一・新井隆仁ペア
 バドミントン (女子) ベスト8：齋木彩絵

課外活動団体だより

サッカー部 優勝

前主将 医学部5年 山本 祐也

平成26年度第57回東日本医科大学総合体育大会におきまして、千葉大学医学部サッカー部は35年ぶりの優勝を果たすことができました。今年の東医体は新潟県の聖籠スポーツセンターアルヴィレッジ・新潟市陸上競技場にて8月5日から8月9日の日程で開催されました。一回戦は岩手医科大学に5-0、二回戦は東京医科歯科大学に2-1、三回戦は日本大学に3-2と順調に勝利をおさめ、準決勝まで進むことができました。準決勝では順天堂大学との戦いでしたが、5-1と会心の勝利でサッカー部としては12年ぶりに東医体決勝の舞台に進むことができました。決勝の相手は3年連続決勝に進出している筑波大学でした。試合は前半に先制点を奪われる苦しい展開となりましたが、後半にサイド突破から1点を返し、同点のまま後半5分ずつの延長戦に突入しました。延長後半に追加点を奪われましたが、直後のセ

ットプレーで同点に追いつき、勝負はPK戦での決着



となりました。PKもサドネスにもつれこむ大接戦でしたが、千葉大は9人全員が成功し、9-8というスコアで勝利することができました。
 サッカー部は今年度の関東医歯薬獣春リーグ1部でも優勝しており、春夏二冠

達成ということになりました。勝因なのかはわかりませんが、千葉大学医学部サッカークラブの強みは「チーム全員で戦える」というところだと思っています。部員はマネージャーも含めて40名以上在籍しておりますが、試合に出ることができるのは11人と限られています。その中で、出場している選手はベンチ外の部員の方まで戦う、ベンチ外の選手やマネージャーは勝利を信じて必死に声をかけるということ、全員ができていたからこそ、優勝という結果を掴み取ることができたのだと思っています。

また、このようなチームづくりができるのも、OB・OGの方々のご支援があったからこそだと思っています。遠い新潟の地で行われた東医体にもたくさんの方々が応援に来てくださいました。私達部員一同は伝統あるサッカークラブに所属しているという意識を常に持って、OB・OGの方々への感謝を忘れずに自覚ある行動をとっていききたいと考えます。

サッカークラブとしては、今回の優勝という結果に満足することなく、次の目標に向かって努力していく所存ですので、今後ともご指導ご鞭

達のほど宜しくお願い致します。

弓道部 個人戦男子 優勝

医学部4年 井田 友明

平成26年度第57回東日本医科学生総合体育大会弓道競技におきまして、私は個人戦男子優勝という成績を収めることができました。個人戦では弓道競技に参加する全ての医科学生と戦うことになるため、その中で優勝できたことをとても嬉しく思います。この結果は私一人が努力するだけでは得られなかったものだと思います。同じ弓道部の部員と共に弓を引くことにより、弓の指導、話し合い等から様々な刺激を受けました。

千葉大学亥鼻弓道部が受け継いでいる練習方法や指導内容が東医体に通用することが示せたという点では、

弓道部紹介

前主将 医学部4年 井田 友明

二つの喜びがあります。一つはこの素晴らしい部活で弓道を始められたこと、そしてもう一つは今回の結果が下学年の励みにもなるということです。私は大学に入ってから弓道を始めたので、私自身が持っている弓道の実力は全て亥鼻弓道部で培われたものです。

正しい弓の引き方をし、緊張感を取り越えて的に向かって真つすぐ矢を飛ばすことができたときの気持ちは何とも言えない快感があります。それは的に命中できたこと以上に、今までの自分の努力が認められたように感じるからです。加えて、弓道は努力すればする



ほど上達していく競技です。他のスポーツにも似たようなことがあると思いますが、弓道をしていると努力することの大切さに気がかされます。勉強に忙しい中で部活動にも力を注ぐのは大変なことですが、活躍されているOB・OGの先輩方の姿を見てみると、ひたむきに弓に向き合うことが将来医療に携わることになる私たちに与えてくれる方向に作用するだろうと感じます。

千葉大学としても、近年では昨年度の東医体での団体戦入賞など様々な大会で良い結果を残すことができていると思います。私自身も今回の結果に慢心することなく、自身のみならず他の部員や千葉大学としての勝利につながるよう、これからも努力し続けたいと思います。最後にありますが、皆様応援ありがとうございます。

部員の大多数は未経験者として入部しますが、自由に弓を引ける環境や上級生の熱心な指導により新入部員もめきめきと上達し、早くから試合で活躍する部員も少なくありません。また、学年関係なく部員同士が指導しあうことで、弓の上達だけでなく部の結束力も高まります。

自主練に行く他の部員も練習していることも多々あります。弓道は個人競技ですが、弓道場に来れば学部・学年が違っていても毎日多くの仲間と会えるのも、



亥鼻弓道部の良い所だと感じています。弓道場は畳のスペースが有り、授業後等にくつろいでいる部員の姿も見られます。

弓道部では体力や集中力を鍛えるだけでなく礼儀、倫理性、集団の一員として活動すること、その他たくさんの方を学びます。その中には弓道部でしか得られないこともあるかもしれませんが、「射は仁の道なり」という言葉があるように、弓道における目標はただ的に命中させることでなく、身体と心気、弓技が合わさった正しい射をすることです。その達成のためには学生生活という限られた時間にはあまりにも短いものですが、その哲学的な面も持ちあわせる奥深さを垣間見ることで、弓道経験は部員にとって人生の大きな糧となるのではないかと思います。

練習の成果として数々の試合にも入賞しています。医学部は2013年にも東医体で入賞し、全医体に出

場しました。さらに上を目指し励んでいます。

また、このように私達が日々不自由なく弓道生活を楽しむことが出来るのもOB・OGの先輩方のご支援があつてのものです。この場をお借りして御礼申し上げます。

亥鼻陸上部復興してます

代表 医学部4年 荒木 貴裕

陸上競技部は2014年10月現在、医学部9人、薬学部8人、看護学部3人の計20名で活動しています。自分が入学した時には先輩が1人しかおらず、当時に比べてかなり人数が増えました。トラックは短距離から長距離まで、更に跳躍、投擲の専門選手もおり、幅広い種目の選手がそろつております。練習は週1回、日曜日に西千葉キャンパスの陸上競技場にて行つており、試合前などは更に平日に青葉の森の競技場にも赴いています。自分を含め半数近くの部員が体育会の陸上競技部を兼部していることもあり、西千葉での練習の際にはそちらの器具も利用させてもらつて、数少ない練習の中でも恵まれた環境を最大限に生かしています。走るだけでなく、ウエイトトレーニングをはじめ、

げます。2014年より新たな師範の先生をお迎えし、亥鼻弓道部はますます活気づいていくと思ひます。これからは亥鼻弓道部の活動を暖かく見守つていただければ幸いです。

身体づくりのために様々な練習を取り入れていきます。冬季練習の始めと終わりなどにはコントロールテストと称して、体力テストも行って練習成果の評価も、楽しみながらやっております。その結果今年は、東医体では惜しくも入賞者を出さず、とが出来ませんでした。関東医科大学対抗では医学部1年の山本峻大が800mで8位に入るなど、男子3種目3人、女子2種目4人が入賞することが出来ました。

陸上競技の醍醐味と言え、自己ベストを出した瞬間の爽快感です。もちろんウサイン・ボルトの世界記録にもものすごく興奮しますが、自分が過去の自分を打ち破った瞬間の喜びは何にも代えがたいものがあります。我々陸上競技選手はその瞬間のために日々練習

を積み重ねるわけですが、大学生として陸上競技をやつていく上で欠かせないものというのが競技力以外にもあります。体育会陸上競技部顧問の小宮山伴与志先生の受け売りですが、大学生になりますと、中学高校のようにただ試合に出るだけでなく、試合の運営にも関わらなければならなくなります。陸上競技大会の運営は学生だけではできません。審判の先生方、競技場の職員方、様々な大人たちにお世話になつて競技

をさせていただいております。そのことを理解し、また携わることで、今後社会に出て働く上で必要な、社会性というものを身につける。これを陸上競技部のもう一つの目標にしたいと思つております。

末筆ではありますが、OB・OGの先生方にはしばらくの間ご連絡をいたさずお詫び申し上げます。今後はご報告等行つてまいりますので、亥鼻陸上競技部を温かく見守つていただきますようお願いいたします。また、



亥鼻陸上競技部のHP、Twitterで試合結果の報告もしておりますので、こちらも見ていただけたらと思います。

潮汐研究会

会長 医学部6年 金井 雅彦

潮汐研究会は設立からまだ1年半程の新しい団体です。潮汐研究会の目的は「釣りを通して海洋の生態系を理解する」と遠回しな表現をしていますが、房総半島や伊豆等の漁港や磯場にて釣りをしているというものです。他の部活や団体と違い、特定の活動日がなくメンバーの都合と当日の天気、潮や風の状況次第で活動内容が変わるといふ一風変わった同好会です。活動内容としては、その季節に応じて旬の魚を決め、その時期に適した漁場を探し(主に東京湾から外房にかけて)、明け方到着を目安に千葉を発するということになります。実際に釣った魚を調理して食べる、漁港にいる方々との触れ合いなど活動内容としてはアウトドア

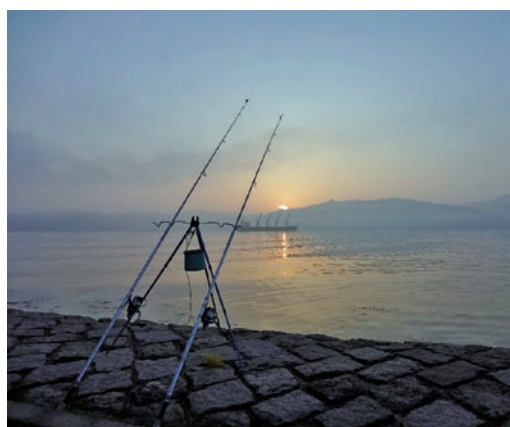
な面が強いと思います。運動部のように東医体や、発表があるわけではなく、設立から日も浅いので大きな大会に参加していません、普段どういった活動をしているのか伝わらない部分もあるかと思ひます。現在は他の部活や同好会と兼部している会員がほとんどで、下級生が少ない現状から不定期な活動になっていきます。将来的には規模を拡大し、定期的な活動、そして外房や東京湾などで開催されている釣りの大会等に参加していきたいと考えています。

最後に発足のきっかけについて書かせていただきました。私が釣りを始めたのは大学3年生の夏でした。当時釣

<https://sites.google.com/site/inohanarikuweb/home>
Twitter: @inoriku_

り好きの友人に連れられて付いていったのがきっかけで、今より時間的余裕のあつた当時は毎日のように海にでかけ、釣れもしないのに海に向かって竿を振り続けていました。そして徐々に「海」について分かるようになり釣果もついてきたころ、もつと亥鼻の人と釣りの楽しさを共有したいと感じ、人を募つたところ予想以上に釣り人口がいたことに素直に驚きました。亥鼻という狭い世界には、自然や人との触れ合いを、少しでも多くの学生に知って欲しいと設立しました。

今後潮汐研究会が長く続きますよう、OB・OGの皆様方のご支援のほど、ぜひともよろしく願ひ申し上げます。



会員から

第39回みのな美術展開催

島田 哲男(昭41)



写真右から
前列：吉川広和、宮下久夫、石井邦夫、川村孝子
後列：榎本貴夫、野口眞利、島田哲男、橋本英明

第39回みのな美術展は、平成26年9月29日(月)より10月5日(日)まで、例年通り銀座ギャラリー向日葵にて開催いたしました。

終日は台風接近の大雨のためか低調となり、会期中の芳名録記帳来廊者は87名で、昨年より少し減りました。

10月4日(土)午後、会場に石井、川村、宮下、吉川、野口、橋本、榎本、各先生と私出品者が三々五々お集まりになり、夕刻近くの銀座アスターに懇親会の席を移してそれぞれの出品

作品の感想と近況を親しくお話しいただきました。来年は、第40回展にあたります。平成27年10月5日より10月11日まで開催を予定しております。

第39回 みのな美術展 出品作品

Table with 3 columns: Name, Graduation Year, and Works. Lists 11 exhibitors and their respective artworks.

◎不出品者 石谷治彦・関根博・柴崎晃(順不同)

26年度会計報告

平成26年10月10日現在

Financial report table showing 26th fiscal year income and expenses. Total income: 530,000; Total expenses: 484,000.

柔道部OB会主催 田邊政裕教授退職祝賀会

柔道部顧問 磯野 史朗(昭59)

6月21日(土)に医学部柔道部OB会主催で、総合医療教育研修センター田邊政裕名誉教授(昭49)の教授退職祝賀会を行いました。



出席者は、田邊政裕(昭49)、坂田早苗(昭34)、鎗田努(昭41)、田沢洋一(昭44)、花輪孝雄(昭45)、石場俊太郎(昭45)、渡辺義二(昭45)、林謙治(昭46)、山森秀夫(昭47)、佐藤展将(昭48)、金丸良平(昭49)、浅井隆善(昭49)、鳩員文彦(昭49)、高橋敏信(昭52)、水見寿治(昭55)、丸山浩(昭58)、磯野史朗(昭59)、伊藤桂(平元)、大測徹(平2)、草塩公彦(平3)、白鳥享(平3)、渡邊博幸(平4)、山口和也(平7)、鈴木修一(平9)、沖野晋一(平10)、堀部大輔(平11)、花岡大資(平15)、葛西孝美(平15)、藤川陽(平16)、大田光俊(平18)、大迫鑑顕(平25)、横山弘典(医学部4年)でした。

マルタ・ローマ・ナポリ 医学史を巡る旅

千葉大学教育学部基礎医科学

杉田 克生 (昭54)

文芸評論家小林秀雄の言に、歴史を知るとは「古の手ぶり口ぶりが、見えたり聞こえたりするような、想像上の経験をいう」とある。ある事象が起きた過去と、我々の記憶や知識で特徴づけられる現在との間に、時間の流れだけではなく何らかの因果関係や想像上の経験が想起されてくる。これは時間の長短は別に、医師が患者を診療する際必ず働かせている脳機能であり、その意味では医師は誰もが歴史家である。さらに「歴史とは混濁性や全体性において成り立つものであり、そこに含まれる多元的要素については物質の『分子』を扱うように慎重に個別解析すると同時に、全体模型を俯瞰する視点を併せもつ必要がある(山内昌之「歴史は何か」PHP文庫)との指摘は、まさに医学も然りというところである。

筆者は大学の講義や講演の際に、可能な限り新知見に至った経過を話すことにしている。それは明治時代に西洋の学芸を取り入れる際に、「それを生み出した思想的・文化的基盤に思いを致すことなく、技術的な導入・模倣に終始した」とするボンペの批判を常に心ずべきと考えるからである。それを大義名分にして、西洋の文化的基盤の一部でも知るべく、各地の医学史を巡る旅をしている。以前は全国公私病院連盟主催の医学史を巡る旅に参加していたが、その際は、ゐのはな同窓会の諸先輩とも同行させていただいた。その後計画が一時途絶えてしまったが、昨年からは同好の先生方が参集して再開している。ゐのはな同窓会オンライン会報の取材協力もいただき、昨年は「ドイツ、チェコ近代医学史歴史訪」に旅立った。その際には、ゐのはな同窓会の先生方から現地の関係者をご紹介ならびに多くの情報もいただいたことには、深く感謝致す所である。



サン・スピリト病院医学博物館内観

今年秋にはオンライン会報で案内させていただいた如く、「マルタ・ローマ・ナポリ医学史を巡る旅」を実施した。マルタの聖ヨハネ騎士団病院、ローマのサン・スピリト病院医学博物館(写真)、ナポリの不治の病人の病院などを訪れ、西洋医学の「思想的・文化的基盤」を知るべく見聞に努めた。近くオンライン会報で閲覧できる予定である。また来年秋にはスペイン医学の歴史を学びたいと計画中だが、会員の先生方から種々ご教示をいただければ

と願う次第である。さらに願わくば会員の先生方にもご参加いただき、医学史への「俯瞰した視点」を美味しいワインを飲みながら語り合いたいと思うところである。



平成26年度 大学院医学薬学府10月入学者

〔神経内科学〕

網野寛

〔麻醉学〕

篠原彩子、孫慶淑

〔分子ウイルス学〕

郭書翰

〔分子病態解析学〕

岩沢勇也

〔公衆衛生学〕

竹村亮

〔遺伝子制御学〕

末廣健一

〔細胞治療内科学〕

澁谷修一

〔分子腫瘍生物学〕

KRISHNAMURTHY SAKTHISRI

〔司法精神保健学特論〕

越山久美子

人事異動

教授

分子生体制御学

幡野 雅彦(昭57)

予防医学センター

関根 章博

京大院医学研究科特定教授より

准教授

麻醉科学

石川 輝彦(昭63)

附属病院講師より

講師

呼吸器外科

岩田 剛和(平11)

医学研究院助教より

附属病院冠動脈疾患治療部

藤本善英(平5)

同部助教より

他大学教授就任

山梨大学

放射線医学講座

大西 洋(昭63)

(同准教授より)

～まさかの休業への備え～

東京海上日動が提供する超ビジネス保険の
地震休業補償

<連絡先>

(株)パイオニア 電話:0120-36-8442

人も地球も健康に

Yakult

千葉大学医学部附属病院 歯科・顎・口腔外科紹介

医学研究院口腔科学 教授
丹沢 秀樹 (昭57)

私たちの教室は医学部における口腔外科学教室の草分けとして、多くの指導者を輩出し、幾つかの大学口腔外科学講座の設立に関係してまいりました。千葉大学医学部の創設は明治7年に遡り、明治8年には既に外科部門に皮膚科とともに歯科が設置されている記録がございます。歯科口腔外科教室となつてからは、ほぼ100年の時を刻んでおり、初代の入野賢二先生は日本の口腔外科の開祖の一人で、日本大学の口腔外科の創設者であります。大正7年に医科専門学校は医科大学に昇格となる大学令が施行され、大正12年には千葉医学専門学校も千葉医科大学となりました。その際に私たちの教室は、さまざまな事情から単なる変則的な診療科に格下げになる経緯がありました。大正14年には中村平蔵先生が担当され、その後、東京医科大学教授となり、口腔外科の中心人物になられました。昭和2年からは、後に東京大学医学部教授、同附属病院長になられた金森

虎男先生が着任されました。昭和6年からは、本学出身の佐藤伊吉先生が着任し、「口腔外科学」、「口腔科学」という学問領域の確立に貢献され、今日の教室の礎を築いてくださいました。佐藤先生は帝国大学である東北大学からの教授就任のお誘いをお断りになられ、千葉大学歯科口腔外科学教室のために、努力の日々を40年間もの長きにわたり送られました。しかも、この間に第二次世界大戦がございました。佐藤先生をはじめ多くの先生方も軍医として応召され、大変なご苦労をされたようです。第二次大戦後、昭和24年に新制の千葉大学が発足し、昭和33年に歯科口腔外科が正規診療科として認可されました。昭和37年には講座となり、佐藤伊吉先生が新制千葉大学初代教授となりました。昭和41年、堀越達郎先生が東京大学分院から赴任され、教授退官後には東日本学園大学歯学部（現在の北海道医療大学）の創設に関与されました。昭和54年からは佐藤研一先生が教授に昇格

されました。歴代の指導者の方々は口腔外科の創始者といつても過言ではないなか、平成9年からは私、丹沢秀樹が主催させて頂いております。

私の恩師の佐藤研一先生は佐藤伊吉先生のご子息でしたので、「千葉大学歯科口腔外科の伝統を継承しつつ、歯科界を支える」ということが、教室の主催者たる者の心得であると私は厳しく教えを受けました。佐藤伊吉先生、佐藤研一先生という父子により、実質的には半世紀を超える間、指導を受けてきたという特異な教室ですので、結果、非常に家庭的な医局となつています。密な人間関係を軸に、現在では医学部における先進医療と先端医学の推進に貢献すべく、教室員一同、全力で努力しております。附属病院でのQOLを考慮した歯科口腔外科診療だけでなく、医学研究院口腔科学では、蓄積されたデータを基に同定した新規癌転移抑制薬、癌化学療法効果増強薬、放射線治療効果増強薬の臨床試験や世界初の唾液液細胞治療および抗菌効果のある義歯の開発も目途が立っており、早期の実現を目指して日々研究を行っております。

最後になりましたが、千葉大学病院および関連病院における円滑な医科歯科連携構築におきましては、日頃より格別なご高配を頂き

心より厚く御礼申し上げます。今後ともご暑誼を賜りますようお願い申し上げます。

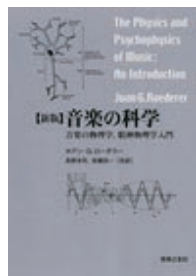


同窓会員著書の紹介

ホアン・G・ローダラー(著)
高野光司(昭33)、安藤四一 共訳

新版「音楽の科学」 音楽の物理学、精神物理学入門

音楽の友社 定価四、八六〇円(税込)
高野 光司(昭33)



思われぬ。筆者にとつては、始めから終わりまで、新しくなったところを探すのが翻訳より苦労だった、といつても言い過ぎではない。

内容は本の題名により明白。「数式はできるだけさける。物理学は高卒程度でよいが、音符の基礎知識と何よりも音楽的センスが必要。」と著者。微積分の式は出てこないが対数への理解程度は必要。米国、英国では広く読まれているらしい。ドイツ語、スペイン語、ポルトガル語訳あり。第二版の日本語訳は二人の同訳者により1979年に音楽之友社より出版。3分の1世紀に及ぶロングセラーは日本において比較するべき良書のなかつた証拠。第4版(2008年)における引用文献は200、その3分の1は訳書初版発行以後のもの。とは言つても、入門書として格別よくなったとは著者ローダラーは、ローマで生まれ、ウィーン、アルゼンチンで育ち、ブエノスアイレス大学で理学博士。後同大学で10年間物理学教授。デンバー大学の物理学教授に招聘され、本職外に全学部学生対象の「音楽の物理学」を開講、そのシラバスが本書のもととなった。そのまた約10年後、1977年、今度は世界的に有名なアラスカの地球物理学研究所の所長(この研究所長はオーロラ研究の赤祖父俊一が所長だったこともある)に就任。NASAにも関係し今や押しも押されぬ宇宙学者である。訳者のひとり安藤四一は、神戸大学大学院教授だったのが、学校教育は、中学卒の

みなのに早稲田大学から工学博士号を得た。ゲッティンゲン大学の無響室で得られた両耳相関度から発展して、コンサートホールの音響学の世界的権威となった。計測と計算によって、和太鼓は森で演奏するのが良い、という安藤の論議は、世界的に有名な和太鼓の演奏を、サントリー・ホールで聴いて、ただうるさいと感じた筆者にもよくうなずけた。

松江寛人(昭37) 著
がんでは死なない
再発をのりきる

保健同人社 定価一、五〇〇円(税抜)



私は昭和37年に大学を卒業、1年間のインターン研修を経て国立がんセンター(現・国立がん研究センター)病院の放射線診療部に勤務しました。そして定年退職するまでの38年間に数多くのがん患者さんを診てきました。

その当時は医師側の倫理に則って、過去のデータから割り出した生存率や余命

著者ロータリーはゲッティンゲン留学時に、イェンデイスにパイプオルガン演奏を習っているし、二人の翻訳者は時期こそ異なるが、ともにアレキサンダー・フオン・フンボルト財団研究生としてゲッティンゲンで研究した。時々世界のどこかで出会う三者を結ぶものは、美しいゲッティンゲンと音楽である。

松江 寛人(昭37)

を患者に当てはめ治療をすることに疑問を持ちませんでした。ところが60歳頃から、医師が考える最前の治療が最善の結果をもたらすわけではないことに気づき始めました。患者さんの声に耳を傾けているようで、実は聞き入れていなかった現実が気が付いたのです。

そして不安、不満、不信などを抱き、どう対応すればよいのか分からずに悩んでいるがん患者さんの支えになる相談所(がん総合相談センター)を平成12年に開設しました。これまでにがんの悩みを

抱えた患者さんやその家族の方が多数当センターを訪れます。悩みは多種多様ですが、共通しているのは、がんと言われた時にショックを受け、直ちに死を考えたの様に対応したらよいのか全く分からず、途方に暮れている状態です。

そのようながん患者さんの相談の事例をもとに本を出版しました。本のサブタイトルを「がんでは死なない」としました。がん＝死と考えている人には、がんでは死なないというのには理解できないと思います。しかし、この本でがんによる不安を感じ悩んでいる人たちに、がんになっても直ちに死ではないということを理解してもらいたいです。

がんになってもがんと死との間にはさまざまな過程があります。それを電車に乗った旅にたとえています。がんという電車に乗り、何が起きるとどこかの駅に着く。各駅に停車する場合もあれば、途中から路線が分かれていて電車を乗り換えることもあり得ます。大事なのは駅に停車したら、その時起こっていることをきちんと把握して適切に対応できれば、また電車は走りだし穏やかな日々が訪れることが期待できます。が

んには様々な過程があり、すぐさま「がん＝死」ではないのです。この本は5つの章で構成されています。

1. なぜがんは再発するのか
2. どんな治療をするのか

生坂 政臣(鳥取大・昭60) 著
外来診療の Uncommon disease

日本医事新報社 定価四、七五二元(税込)



3. 自分に合った治療を選ぶには
4. 治療での不安、不満、不信に対処するには
5. QOLを重視した人生を送るには

中村 真人(昭54)

先日ある先輩に、順天堂第三代堂主・佐藤進先生が下関条約締結時に暴漢に襲われた李鴻章を助けたお礼に、「妙手回春」という書を贈られたという話を聞いた。その後、この「外来診療の Uncommon disease」を読んだ、まさに生坂先生が現代の妙手回春ではないかと思った。

ところで、何故生坂先生の本に出会ったのか。今年の9月9日火曜日午後7時30分、私の所属する千葉市医師会理事会の会長挨拶は、「大変面白い本がある。あま

著名医師が実際の症例をドラマで再現し、研修医がゲストタレントなどとの討論を経ながら、再度再現ドラマと2回目の討論後に病名を絞り込み、最後に正解と解説が発表されるという流れの番組である。私も、生坂先生の登場した番組を何回か拝見したが、この本はまさにそのドクターGのダイジェスト版で、人を引きつけて放さない。その理由は、71の症例が網羅されているにも関わらず、簡潔に

現症・現病歴・最終診断・説明と各2ページにまとめられているので、たった5分の隙間時間にも読める。そして、一つの病気を知ること、自分が名医になつたような気分になる。まさに、妙手回春である。しかも、薄くカバンに入れてもかさばらない。さらに、一症例一症例の内容が濃く、ちようど短編推理小説を読むようにどこから見ても楽しめる。

これは、大変だ。私のようなかかりつけ医も、総合臨床医の末席を汚す一員である。であれば、この Uncommon disease は、是非机の上にも置いてブラッシュアップを図らなければ。この本は、外来診療をする全ての医師が読むべきである。読むと非常に爽やかな気分になり、日常診療がブラッシュアップされることを保証する。

ここで、ご存じない諸兄の為に簡単に解説しておきたい。「総合診療医ドクターG」では、「ドクターG」と呼ばれる現役

住所変更・勤務先変更
された方は**同窓会事務局**
までご連絡ください。

個人情報保護法のため、
移動先が把握しにくくな
っております。

ご協力くださいますよ
うお願いいたします。

事務局

電話 (043) 202-3750

FAX (043) 202-3753

e-mail : info@inohana.jp

雑文雑談 ある老学徒の手記

石出猛史(昭52)

人類学考古学者鳥居龍蔵(1870-1953)の自伝(岩波文庫)の標題である。龍蔵は主に石器時代を研究領域として、千島・樺太・シベリア・遼東半島・満州・モンゴル・西南中国・台湾・沖縄などの極東を中心に、調査研究を行った。

東京帝国大学文学博士。助教として人類学教室を主宰した。学歴はない。旧阿波藩時代から続く、徳島の裕福な煙草問屋に生まれたが、尋常小学校中退である。学校を立身保障の場とみなしたためという。

以後自宅で、高等小学校・中学校までの課程を修学した。16歳で東京人類学会に入会し、後の帝国大学人類学教室初代教授坪井正五郎の知遇を得る。

18歳で「徳島人類学取り調べ仲間」を創立し、定期的に遺跡調査の報告会を行った。後に両親と兄を連れて上京し、正五郎の人類学教室に、標本整理係として任用された。独自にカリキュラムを作り、師の正五郎に頼んで、地質学・動物学・解剖学・発生学・古生物学

の聴講生となり、組織学・生理学も学んだ。

上田万年の言語学も聴講している。万年は本学の前身校千葉医学専門学校々歌の校閲を行っている。龍蔵は、独語・露語・蒙古語・アイヌ語などに通じ、主要な論文は仏語で発表している。選攻した研究に、必要と思われる学問領域を見つけて出し、貪欲に知識を吸収していく姿がうかがえる。

坪井正五郎は、大学院生時代の明治20年(1887)、埼玉県吉見の横穴群(吉見の百穴)の調査を行い、アイヌ伝説上の小人族コロポックル(コロ路・ポックル下・グルル)の住居として報告した。現在は古墳時代の横穴式墳墓とされている。

千葉県内で見つかった横穴墓は、約四千基といわれている。富津市の湊川流域、鋸南町から和田町にかけて、一宮川・夷隅川流域の長生・夷隅地区に密集している。長生郡長柄町徳増の横穴古墳(徳増横穴群 県史跡)は見学することが出来る。

山武・長柄地方の横穴群の最初の調査報告は、明治19年(1886)『東京人類学雑誌九号』に掲載された。明治25年(1892)に、本納(現茂原市)を旅行した龍蔵が、この横穴群に触れていないのは、奇異な印象がある。

龍蔵は、台湾でも原住民の調査を行っている。台湾の原住民は、インドネシアからの渡来人とされている。原住民の一部族ツォー蕃から採取した話として、かつて居住していたという小人族について触れている。穴小屋に住み、森林の樹から樹を駆け廻っていた。当時まだその住居跡が残っていたという。

2003年オーストラリアとインドネシアの合同調査隊が、インドネシア領フロールス島のリアン・ブア洞窟で、身長1m程の女性の骨を発見した。現生人類と同じホモ族に属し、ホモフロレンシENSと命名された。1万3千年程前まで、

現生人類と共存していたという。コロポックルも、単なる伝説とは言い切れないのかもしれない。

龍蔵の夫人キミも、度々海外の調査に同行して、論文を発表している。本邦における最初の女性考古学者とされている。大正13年(1924)東京帝国大学を辞して、鳥居人類学研究所を設立した。所員は家族である。その後も外務省から派遣されて、インカ帝国の遺跡の調査を行ったり、度々満州・中国での調査に携わっている。昭和28年(1953)没。享年八十二歳。

Martin Auer著『ファールの庭』(原題Ich aber erforsche des Leben 渡辺広佐訳 NHK出版)を読むと龍蔵とアンリ・ファールは、旺盛な学習意欲と、熱心な研究態度という点で、共通した資質を持っている。創造性というのは、教育されるものではなく、自分で育んでいくものなのだろう。



岩波文庫 112-1 岩波文庫

PROUD

プラウド稲毛小仲台

— 新発表 —

千葉大学医学部同窓会の皆様へ

The LIMITED HILLS

稲毛、かけがえのない邸。

専有面積75㎡超中心*1

最大面積100㎡超

*1 全57邸中47邸

採光豊かな

全邸南・南東向き

千葉大学附属幼稚園・小学校

通学可能エリア

■《プラウド稲毛小仲台》予告物件概要 ●所在地/千葉県千葉市稲毛区小仲台7丁目14-3他(地番) ●交通/JR総武線「稲毛」駅徒歩10分 ●総戸数/57戸(他に管理事務室1戸) ●販売戸数/未定 ●構造/規模/鉄筋コンクリート造6階建(建築基準法上は地上5階・地下1階建) ●敷地面積/2311.55㎡ ●用途地域/第一種中高層住居専用地域 ●間取り/3LDK・4LDK ●専有面積/73.18㎡~102.76㎡(トランクルーム面積含む) ●バルコニー面積/10.98㎡~31.99㎡ ●ルーフトバルコニー面積/16.86㎡~40.01㎡ ●入居予定時期/平成28年3月下旬 ●管理形態/区分所有者全員で管理組合結成後、運営・管理業務は管理会社に委託予定 ●建築確認番号/第H26普及協会00088号(平成28年8月25日付) ※今後計画変更の予定があります。 ●予定販売価格/未定 ●管理費等/未定 ●売主/野村不動産株式会社、国土交通大臣(12)第1370号、(一社)不動産協会会員、(公社)首都圏不動産公正取引協議会加盟、本社〒163-0566東京都新宿区西新宿1-26-2新宿野村ビル ●施工/新日本建設株式会社 ●設計・管理/(監工、設備設計管理)株式会社IAO竹田設計(構造設計管理)新日本建設株式会社 ●販売予定時期/平成27年1月下旬 ※本物件は一括して販売するか、分割して販売するか未定です。記載の専有面積等は全戸に対してのもので、販売戸数等の未確定部分につきましては本広告時に表示いたします。

□現地完成予想図※掲載の完成予想図は計画段階の図面を基に書き起こしたCGに現地付近建物【現地より約150m】の4階から撮影した眺望写真【平成26年7月撮影】をCG合成・加工したもので実際とは異なります。なお、完成予想図は各種機器・配管・素材等および周辺建物・電柱・架線は一部省略、または簡略化しております。また、植栽は特定の季節の状況を示す物ではありません。竣工時に完成予想図程度には成長していません。樹種は一部変更になる場合があります。タイルや各種部材につきましては、実際の質感・色等の見え方が異なる場合があります。また、今後変更になる場合があります。

新春

モデルルーム優先案内会開催(予定)

~資料請求いただいた方を優先的にご招待します。~

お問い合わせは《プラウド稲毛小仲台》販売準備室

0120-533-057

営業時間/平日11:00~18:00

土・日・祝日10:00~18:00

定休日/毎週水・木曜日、第2火曜日

【光主】

野村不動産

資料のご請求は

プラウド稲毛 検索

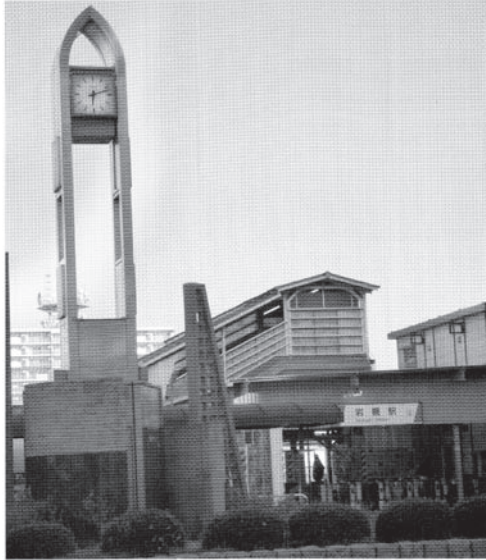
埼玉るのはな会

平成26年6月 第15号

埼玉のはな

千葉大学医学部のはな同窓会埼玉県支部

第15号 2014年6月



埼玉のはな 第15号 2014年(平成26年) 目次

ご挨拶	
ごあいさつ	伊藤 敏夫 …… 1
埼玉県支部総会ご案内	
お知らせ	伊藤 敏夫 …… 2
お祝	
米寿	
身体が弱いと長生きする?	石川 哲也 …… 3
珍しい姓	四家正一郎 …… 4
遠い昔の思い出	井上 幸万 …… 6
お礼と近況	島田 恒郎 …… 7
喜寿	
喜寿を迎えて	三木 亮 …… 9
短歌 日々の診療カルテ(其の二)	根岸ゆきのり …… 11
話の広場	
随想	自己責任について 横田 俊二 …… 14
小児外科医として40年	小川 富雄 …… 15
私の医歴書	門山 周文 …… 21
花園は快晴でした	得丸 幸夫 …… 24
近況報告	熊谷の大雪被害 五月女直樹 …… 26
久喜総合病院近況報告	植松 武史 …… 28
院長就任1年を振り返って	伊藤 博 …… 29
千葉大学医学部のはな地区(h26.5.11現在)の 建造物群の一部	
趣味	マラーの音楽(第3回) 野口 哲夫 …… 31
連載・天体写真録(4)	杉浦 敏之 …… 49
ゴルフ部から	
吉川部長連続優勝、バスグロなども取り、四冠獲得	林田 和也 …… 53
埼玉県支部から	
ご挨拶とお願い	中村 勉 …… 58
平成25年度埼玉県支部決算報告	中村 勉 …… 58
埼玉県支部規約	…… 60
お願い・原稿募集	中村 勉 …… 61
表紙写真のご案内	野口 哲夫 …… 62
編集後記	野口 哲夫 …… 63

るのはな・かながわ

平成26年8月 第25号

のはな・かながわ(平成26年8月1日)

のはな かながわ



のはな・かながわ(平成26年8月1日)

1

のはな・かながわ 第25号 目次

巻頭言	東京・千葉・神奈川	小野田昌一	2
総会	平成25年度総会開催報告	高橋 修	4
	平成24年度神奈川のはな会庶務報告		5
	平成24年度決算報告・平成25年度予算案		5
	総会風景		6
	集合写真		7
病院めぐり	小松会病院	小松幹一郎	8
地区だより	横浜北部地区〜クリニック開設挨拶とともに〜	有我隆光	10
身辺雑記	開業医の定年	山本 勇	12
	ペットとPET	田町賢一	14
	同意の符様に感謝	佐々木淳一	15
新規開業		手塚健太郎	17
表紙絵のこと			18
訃報			18
事務局より			18
編集後記			19

オンライン会報案内

<http://www.inohana.jp/online/index.html>



インターネットサイトであるオンライン会報では、**病院紹介**、**みのはな同窓会員が経営する病院・医院・診療所の紹介**などしております。病院紹介番組では、病院だけでなく、病院に勤務している先生も紹介するようにしております。さらに、千葉県内での経営の場合、千葉日報への掲載も連動させております。オンライン会報での紹介をご希望の会員の先生は、みのはな同窓会本部へお申し出ください。なお、オンライン会報での紹介番組では、可能な限り、番組内容に関連する新聞・雑誌の記事を併設するようにしております。

一方、**求人・求職**では医師募集欄も掲載しております。募集広告の掲載をご希望の会員は、ご寄稿も含めてご活用ください。また、みのはな同窓会員が執筆した書籍の紹介もしております。著者へのインタビューを加え、書籍の内容をより深く理解できるように、配慮しております。すでに、発刊済みの書籍がある会員で、オンライン会報での紹介をご希望の先生は、みのはな同窓会本部へお問い合わせください。

本紙面では、以上の番組例をオンライン会報のトップページより転載してお示しします。どうぞ、ヤフーやグーグルなどから、オンライン会報と検索して各番組の動画をご覧ください。

Windowsで動画をご覧になる場合はInternet Explorerを推奨します。
Macintoshで動画をご覧になる場合はプラグインソフト「Flip4Mac」をインストールしてください。
>>ダウンロード >>インストール方法
ただし「* Mac/スマホ対応*」があるものは、プラグイン無しでご覧になれます。

オンライン会報 総合目次

- ・病院紹介
- ・同窓会員経営の病院・医院・診療所の紹介
- ・生涯学習講座
- ・求人・求職
- ・インタビュー
- ・国際交流
- ・都道府県医師対策
- ・オンライン書庫
- ・話題
- ・同窓会
- ・クラス会・他大学等
- ・「ほっとひといき」ちば通信(千葉日報)
- ・キャンパス便り
- ・協賛企業からのお知らせ

■病院紹介 ▶病院紹介の一覧はこちら



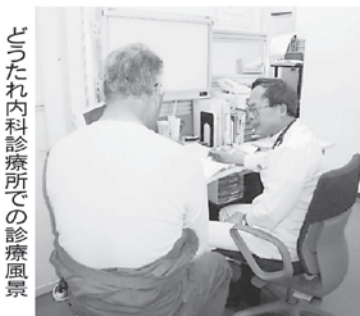
NEW
青梅今井病院

院長 上田源次郎

- ・「みとり」を重視した医療 ▶映像を見る
- ・同窓会活動に期待すること ▶映像を見る

* Mac/スマホ対応*

オンライン会報の取材編集に貢献して頂ける先生を募集しております。参画可能な先生は、取材や編集作業などについての詳細を同窓会本部までお問い合わせください。



どったれ内科診療所での診療風景



堂垂伸治院長
療にやりがい

まずまず高まる地域医療のニーズにこたえるべく、松戸市常盤平地区を中心とした地域を対象に、14年前に開設されたどったれ内科診療所。

千葉大学医学部第3内科(主に循環器病が対象)教室に入室したのち、千葉西総合病院などへの勤務を経て、地域密着型医療を目指す堂垂伸治院長が主宰している。

堂垂院長は「総合医という立場から、自分なりの医療を追及し、診療にやりがい」を追求している。

地域住民への人間愛に基づく医療の展開という点で、堂垂院長は、「これからの時代、専門医としてばかりでなく、幅広い教養と人間性を兼ね備えた医師が増えることが求められている」と意欲的に語っている。

また「一人暮らしあんしん電話」もおたすねフォン」という即応システムも創設。さらに、在宅医療(訪問診療・往診)や認知症患者への対応などを通して、高齢者にやさしい街づくりにも貢献している。

◆堂垂伸治院長プロフィール
千葉大学医学部卒。千葉大学医学部第3内科、千葉県救急医療センター、千葉西総合病院などを経て1999年、松戸市にどったれ内科診療所を開業。

◆診療案内▽診療科 内科▽受付時間 9時~12時・15時~18時▽休日 日曜日(土曜は午前のみ)
▽住所 松戸市常盤平1-200の3
▽電話 047(394)0600

医療法人社団 緑星会
どったれ内科診療所

患者にやさしい街づくりを

地域病院
医院紹介

を見いだしている医師。急速な高齢化という常盤平団地の将来像を予見し、訪問看護ステーションや居宅介護支援診療所を併設してきた。

■同窓会会員経営の病院・医院・診療所の紹介



**その人らしい生活と人生を
ささえて、はや13年**
クリニックふれあい早稲田
院長 大場敏明
・介護医療関連報道から
(2013年1月～2014年6月)
* Mac/ スマホ対応*



NEW
精神科医療を語る
桜並木心療医院
院長 浅野 誠

- ・精神科医療の実践歴 ▶ [映像を見る](#)
- ・画家・作家としての精神科医 ▶ [映像を見る](#)
—医療行為は医師をも変える—
- ・院内施設の紹介
 - その1 ▶ [映像を見る](#)
 - その2 ▶ [映像を見る](#)
 - その3 ▶ [映像を見る](#)
- ・展示絵画の紹介 ▶ [映像を見る](#)

* Mac/ スマホ対応*

■求人・求職



NEW
医療・介護を通じて「あんしん」と「まごころ」を届けます
東京さくら病院
管理者・院長 東海林 豊
事務長 氏 建人
・東京さくら病院 ▶ [WEBサイト](#)
医師募集内容 (PDF 60KB)
・東京さくらメディカルケアセンター ▶ [WEBサイト](#)
医師募集内容 (PDF 66KB)



地域包括医療（ケア）を継承し、更に発展させる役割を担って
国保匝瑳市民病院
(写真左より)
事業管理者・病院長 菊池紀夫
事務局長 山内保則
内科科長 海野広道
独立行政法人国立病院機構千葉医療センター
研修医 八木久子
医師募集内容 (PDF 13KB)
▶ [WEBサイト](#)



■オンライン書庫

【書籍】

掲載書籍をご覧になりたい方は同窓会本部へご連絡ください。

1. 会員著書



NEW
その鎮静、ほんとうに必要なですか
さくさべ坂通り診療所
院長 大岩孝司
副院長 鈴木喜代子

- ・「序文」「目次」を読む
- ・がん終末期を生き抜く人の尊厳は守る !!
▶ [映像を見る](#)
- ・込み入った疼痛の理由を明かす
—緩和ケアの柱は、全人的ケアにある—
▶ [映像を見る](#)
- ・深い持続的な鎮静は安楽死
—終末期がんの疼痛は避けることができる—
▶ [映像を見る](#)
- ・疼痛とせん妄
—終末期ケアに伴うふたつの課題—
▶ [映像を見る](#)

* Mac/ スマホ対応*

(平成26年11月30日現在)

新みの は な 同窓 会 館 寄 附 者 ご 芳 名



高額寄附者ご芳名

(敬称略)

300万円以上ご寄附

企業・法人等

財団法人 同仁会

200万円以上ご寄附

企業・法人等

(株) 千葉京成ホテル
鳥居薬品(株)

医学部後援会

医学部後援会

寄附者ご芳名

(敬称略)

一般個人

片野 鈴枝
加藤 良二
久保田勤也
稲瀬 道和
進藤 輝山

医療機関

旭神経内科病院
国保旭中央病院
(医) 井上記念病院
(医) 大平会嶺井第一病院
(医) かすみクリニック
上都賀総合病院
三川鉄千葉病院

同窓会員

矢野浩二郎(平11)

100万円以上ご寄附

医療機関

旭神経内科病院

(医) 大平会嶺井第一病院

三川鉄千葉病院

千葉中央メディカルセンター

東船橋病院

(医) 船橋整形外科病院

(医) 志方記念三木クリニック

企業・法人等

アステラス製薬(株)
キッコーマン(株)
小太郎漢方製薬(株)

第一三共(株)
武田薬品工業(株)
田辺三菱製薬(株)
中外製薬(株)

(株) ツムラ

ファイザー(株)

千葉大学医学部附属病院

臨床医学研究助成会

小埜 清

(医) 船橋整形外科病院

(医) 習志野第一病院

(医) 三橋病院

(医) みはま病院

SMBC日興証券(株)

赤星工業(株)

旭化成ファーマ(株)

あすか製薬(株)

アステラス製薬(株)

アストラゼネカ(株)

アルフレッサファーマ(株)

石井食品(株)

(株) 石渡商事

岩瀬薬品(株)

(株) ウチタ和漢薬

栄研化学(株)

エスエス製薬(株)

嶺井 進(昭38)

伊藤 晴夫(昭39)

今津 暉(昭40)

赤井 壽紀(昭43)

唐澤 祥人(昭43)

辛 秀雄(昭44)

中村 陽子(昭44)

大西久仁彦(昭47)

旭 俊臣(昭48)

早乙女 勇(昭48)

秋葉 哲生(昭50)

福井 博行(昭56)

白澤 浩(昭57)

土屋 広明(昭57)

角田 隆文(昭57)

仲野 公一(昭63)

岡本 和久(平2)

土井 茂治(平3)

小山 虎信(公衆衛生学)

(株) エスアールエル

エーザイ(株)

エース損害保険(株)

エルメッドエーザイ(株)

大塚製薬(株)

(株) 大塚製薬工場

小野薬品工業(株)

科研製薬(株)

化研生薬(株)

鹿島建設(株)

勝又自動車(株)

(株) 北原防災

キッコーマン(株)

キッセイ薬品工業(株)

杏林製薬(株)

協和醗酵工業(株)

キリンファーマ(株)

グラクソ・スミスクライン(株)

クラシエ製薬(株)

昭49	青柳博	浅井隆善	石神博昭	江原正明	片桐誠	田辺恵美子	菊地紀夫	小林裕夫	桜庭庸悦	鈴木洋一	高原善治	田中順子	田中正	田邊政裕	南郷晃	飛澤彰	西山裕孝	野村恭子	鳩貝文彦	三上恵只	弓削一郎	昭50	秋葉哲生	麻生誠二郎	安東昌夫	上田志朗	大森景文	上村公平	河内文雄	北川道隆	小出義雄	齊藤万比古	佐々木健	篠遠彰	勝呂慶子	高林克己	戸塚清一																																								
内藤正文	永瀬譲史	高橋道子	西山徹	岩津都希雄	金子澄子	菅野治重	木村純	五月女直樹	佐藤武幸	鈴木亮二	武井泉	田中秀之	田中眞	田中誓一	田町純一	土佐純一	中村文子	西山眞理子	長谷川純	渡辺博子	森川眞一	渡辺順子	秋谷徹	飯田眞司	入江氏康	大塚裕	沖本光典	鴨下博	川口英昭	木村道雄	後藤信昭	佐伯直勝	佐野千寿子	篠宮正樹	隆元英	土佐寛順	富谷久雄																																								
中尾照逸	小林けい子	登坂薫	野積邦義	本田徹	増村道雄	宮内大成	宮崎勝	森野正明	山本日出樹	横須賀收	秋田徹	井坂茂夫	大塚芳克	小野元子	鏡味勝	河合誠義	黒崎知道	児島孝行	坂本薫	佐藤兼重	高橋和久	寺崎太郎	寺崎隆	中山朝行	林春幸	姫野雄司	紅谷明	赤谷正一	皆川秀夫	八木橋美範	山本和夫	昭52	五十嵐辰男	稲田晴生	尾崎正彦	香村衡一																																									
北澄忠雄	久保田浩一	小林純	鈴木久史	高田俊一	塚田和美	中村勉	林田和也	兵頭明夫	福田薫	古川斎	升田吉雄	松前孝幸	安田敏行	山縣正庸	四元徹志	昭53	新井眞男	石川洋	上田源次郎	宇田川晃一	遠藤和男	織田成人	加藤義治	北村由美子	荏原実千代	鈴木文晴	高良健司	塚本哲也	武永博	寺井勝	得丸幸夫	仲田勲生	野々村裕子	三瀬忠道	森照男	山上岩男	吉澤卓	吉原俊雄	若林正治																																						
木村正幸	小林彰	鈴木孝雄	須田啓一	高橋敏信	中沢肇	中山大典	檜前薫	広岡昇	伏島堅二	堀部和夫	松岡明	湊明	山口善重	山田善重	安徳純	伊藤公道	上野泉	遠藤和男	織田成人	加藤義治	北村由美子	荏原実千代	鈴木文晴	高良健司	塚本哲也	武永博	寺井勝	得丸幸夫	仲田勲生	野々村裕子	三瀬忠道	森照男	山上岩男	吉澤卓	吉原俊雄	若林正治																																									
渡邊浄	昭54	五十嵐忠彦	石毛俊行	大内純太郎	掛田充克	小林進	近藤福雄	下条直樹	杉浦信之	鈴木良一	高野正一	巽浩一郎	宮崎泉	林北見	宮本恒彦	渡辺恒家	昭55	有我隆光	石橋武史	植松雄一	長木親重	久木文重	斎藤康文	柴橋博之	須藤義夫	田中篤	土田豊美	鳥居俊男	長島通	橋本尚武	水見京子	平賀幸弘	藤田幸明	松井英雄	諸田英夫	吉永勝訓	渡辺昭彦																																								
井関徹	伊藤純	岩崎伸行	岡陽一	笠松紀雄	亀井克彦	高井泰成	五島茂之	座間秀一	繁田美香	杉山隆夫	平良眞人	田川まさみ	高田博之	瀧口正樹	道永麻里	土屋明弘	中島一彰	永寫薫	馬場章	福井博行	堀内啓	松村千恵子	道永幸治	森石丈二	湯山琢夫	脇田久	石津谷義昭	ピアス洋子	岡田淳一	小野崎郁史	桑原聡	下山恵美	高梨一紀	露口利夫	西島由美	佐野信昭	田宮敬久	土屋広明	角田隆文																																						
中澤功	難波清	松本玲子	丸山尚嗣	守月卓理	山口秀	山本恭平	昭58	池田政文	岩立康男	亀山伸吉	今田進	平井眞紀子	鈴木俊英	滝口裕一	田中泰弘	長門義宣	豊崎哲也	西村元伸	深沢毅	星岡明	丸山浩	武城英明	日野剛	長門義宣	築藤玲子	田島和幸	高木一也	品田良之	近藤克則	岸幹夫	加藤雄一	石川信泰	池田政文	繁田美香	杉山隆夫	平良眞人	田川まさみ	高田博之	瀧口正樹	道永麻里	土屋明弘	中島一彰	永寫薫	馬場章	福井博行	堀内啓	松村千恵子	道永幸治	森石丈二	湯山琢夫	脇田久	石津谷義昭	ピアス洋子	岡田淳一	小野崎郁史	桑原聡	下山恵美	高梨一紀	露口利夫	西島由美	佐野信昭	田宮敬久	土屋広明	角田隆文													
山内直人	吉田正美	昭60	阿部恭久	有田洋右	石島秀紀	岡田朝志	菊野薫	北崎等	窪田徳幸	古口徳雄	佐野三千広	竹田秀一	長晃平	豊沢忠	堂垂伸治	鍋谷圭宏	林秀樹	森嶋友一	保元明彦	昭61	安達智江	石井浩	石田厚	今牧瑞浦	香川晃太郎	加藤直也	菊地浩之	木元博史	佐藤晴彦	清水宏明	須藤知子	園田昌毅	寺内隆司	長門文子	西脇哲二	林偉明	松永保	山内直人	吉田正美	昭60	阿部恭久	有田洋右	石島秀紀	岡田朝志	菊野薫	北崎等	窪田徳幸	古口徳雄	佐野三千広	竹田秀一	長晃平	豊沢忠	堂垂伸治	鍋谷圭宏	林秀樹	森嶋友一	保元明彦	昭61	安達智江	石井浩	石田厚	今牧瑞浦	香川晃太郎	加藤直也	菊地浩之	木元博史	佐藤晴彦	清水宏明	須藤知子	園田昌毅	寺内隆司	長門文子	西脇哲二	林偉明	松永保		
山本光之	渡邊和義	安蒜聡	五十嵐裕章	井上雅子	佐藤典子	北川憲一	木元正史	興村義孝	坂井誠一	古口徳雄	佐野三千広	竹田秀一	長晃平	豊沢忠	堂垂伸治	鍋谷圭宏	林秀樹	森嶋友一	保元明彦	昭61	安達智江	石井浩	石田厚	今牧瑞浦	香川晃太郎	加藤直也	菊地浩之	木元博史	佐藤晴彦	清水宏明	須藤知子	園田昌毅	寺内隆司	長門文子	西脇哲二	林偉明	松永保	山内直人	吉田正美	昭60	阿部恭久	有田洋右	石島秀紀	岡田朝志	菊野薫	北川憲一	木元正史	興村義孝	坂井誠一	古口徳雄	佐野三千広	竹田秀一	長晃平	豊沢忠	堂垂伸治	鍋谷圭宏	林秀樹	森嶋友一	保元明彦	昭61	安達智江	石井浩	石田厚	今牧瑞浦	香川晃太郎	加藤直也	菊地浩之	木元博史	佐藤晴彦	清水宏明	須藤知子	園田昌毅	寺内隆司	長門文子	西脇哲二	林偉明	松永保

佐藤 彌生 茂谷 久子	伊賀恵美子 高地 光世	呼吸器内科学 宮崎 瑞明	清水 栄 池上 智康 風戸 豊	橋爪 一光 小川 淳二 齋藤 康	診断病理学 中谷 行雄	田那村 宏 中谷 行雄	神経生物学 小平 昌	代謝生理学 桑木 共之	眼科学 石渡 東海 大原 むつ	柿栖 米次 水野谷 智	高綱 陽子 山中三三代	渡部 美博	脳神経外科学 石川 徹 永野 修	遺伝子生化学 芦野 洋美 岩瀬 克郎	日和佐隆樹 岩瀬 克郎	腫瘍病理学 石井源一郎 北川 元生	張ヶ谷健一 古木 新	三方 一澤	泌尿器科学 石引 雄二 大隅 信幸	梶本 伸一 茂田 安弘	鈴木 文雄 富岡 進	角谷 秀典 真鍋 溥	病原分子制御学 野田 公俊	薬理学 井上 優 門田 健	中谷 晴昭	感染生体防御学			
野呂瀬一美 青才 文江	守 正英	分子生体制御学 木村 定雄	細胞治療内科学 池上 智康 風戸 豊	清水 公子	臓器制御外科学 岡村 大樹 小林 賢二	皮膚科学 佐野 伸 鈴木 啓之	黒田 啓 伊藤 文子	佐藤 千鶴 松本 英夫	分子病態解析学 米満 博	形態形成学 年森 清隆 豊田二美枝	外山 芳郎 森山 行雄	齋藤哲一郎	齋藤哲一郎	動物病態学 伊勢川直久 伊藤 勇夫	生殖機能病態学 小野寺 勉 葛田 憲道	小林 章弘 生水真紀夫	芳野 春生	遺伝子制御学 齊藤 隆 中島 裕史	宮武昌一郎	分化制御学 内田 昭夫 近藤 正大	免疫発生学 中山 俊憲	小児病態学 阿部 博紀 花城恵美子	阿部 博紀 花城恵美子	太田 節雄 忍足美代子	金澤 正樹 川上 武子				
上林 直子 多田 裕司	露崎 俊明 渡辺 福	整形外科学 小野崎 晃 篠原 寛休	鈴木 弘祐 武内 重樹	田波 秀文 土屋 恵一	渡邊英一郎	耳鼻咽喉科学 岡本 美孝 鎌田慶市郎	亀谷 秀夫 小関 洋男	橋 昌孝 寺田 修久	山越 隆行 三橋 麗子	腫瘍内科学 足立 公代 内山 幸信	宇野沢隆夫 奥田 桂子	越後貫道子 川島柳太郎	久原 厚生 小林千鶴子	佐久間 淳 及川 貞	須田 恵 多田 式江	寺田 洋臣 馬場 勇次	日暮 協 矢沢 孝文	米満 裕 伊藤 俊夫	精神医学 日下 忠文	放射線医学 荒居 龍雄 伊東 久夫	遠山 富也 中村 修	呼吸器病態外科学 恒元 博 中島 崇裕	吉野 一郎 中島 崇裕	細胞分子医学 岩間 厚志 太田 要生	循環病態医学 江原 和枝 小室 一成	杉林 昭男 元山 妙子	宮内 郁枝 諸岡 信裕	石山 信之 鶴澤 一弘	
内山 清春 大木 保秀	小河原克訓 小野 可苗	木村 孝雪 工藤 逸郎	大川 和子 坂本 洋右	佐藤 匡司 椎葉 正史	嶋田 健 高橋美恵子	盛永 智子 横江 秀隆	翠川 鎮生 森川 裕一	久保田 亨 佐久間洋一	伊賀 浩 海宝 雄人	先端応用外科学 久保田 亨 佐久間洋一	篠原 靖志 神宮 和彦	原田 昇 牧野 治文	元山 逸功 牧野 治文	生命情報科学 田村 裕	心臓血管外科学 松宮 護郎	手術部 飯寄 奈保	総合診療部 生坂 政臣	薬剤部 大森 栄 北田 光一	先端和漢 笠原 裕司	43クラス会 心あいのな同窓会	七葉会(専25)	五窓会(専23)	八千会代表大沢弘和(専26)	葉々会	昭和61年卒同窓会	矢作会代表永野俊雄(昭30)	西千葉医師の会	北田光一教授退官記念事業会	千葉大学医学部脳神経外科学教室 もぐら会

新みのな同窓会館設立事業会募金状況報告書

平成26年11月30日現在

寄付者	千葉大学基金		みのな同窓会寄付金		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
企業等	154	52,109,000	16	3,440,000	170	55,549,000
教職員 (元職員も含む)	225	26,264,000	121	4,190,861	346	30,454,861
同窓会会員	1827	129,689,000	1101	43,791,383	2928	173,480,383
後援会会員	94	5,483,000	54	3,775,000	148	9,258,000
合計	2300	213,545,000	1292	55,197,244	3592	268,742,244

みのな37会
千葉大学医学部平成4年の会

昭和53年卒同期会



効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等については製品添付文書をご参照ください。

製造販売元(特許取得済)
ファイザー株式会社
〒165-8528 東京都板橋区豊洲6-9-4

2014年9月現在

お詫びと訂正
165号
24頁
第38回みのな美術展
開催
タイトル
島田哲夫↓島田哲男
写真キャプション
島田哲夫↓島田哲男
お詫びして訂正させていただきます。

第8回

開催のお知らせ

参加費：医師のみ 1,000 円（研修医、学生は不要）

ちば Basic & Clinical Research Conference

日時 平成 27 年 2 月 7 日 (土) 13:00 ~ 17:00

場所 京成ホテル ミラマーレ 6 階ローズルーム

千葉市中央区本千葉町 15-1 TEL：043-222-2111

※本研究会はスカラーシッププログラムの講義としても位置づけております。

13:00 ~ 開会の辞

千葉大学大学院医学研究院長

横須賀 収 先生

13:10 ~ メーカーセッション

座長 千葉大学大学院医学研究院 心臓血管外科学

教授 松宮 護郎 先生

『静脈血栓塞栓症(VTE)~肺塞栓症後症候群(post PE synd)：病態と治療について』

演者 千葉大学大学院医学研究院 総合医科学講座

特任准教授 石田 敬一 先生

13:30 ~ 講座紹介

座長 千葉大学大学院医学研究院 疾患生命医学

教授 幡野 雅彦 先生

『細胞分子医学教室における幹細胞研究について』

演者 千葉大学大学院医学研究院 細胞分子医学

教授 岩間 厚志 先生

『救急集中治療医学講座における研究について』

千葉大学大学院医学研究院 救急集中治療医学

教授 織田 成人 先生

14:30 ~ 学生発表

座長 千葉大学大学院医学研究院 粘膜免疫学

助教 坂本 明美 先生

東邦大学医学部整形外科学講座(佐倉)

准教授 中島 新 先生

「ラットグリオプラストマモデルに対する新規薬剤キャリアを用いた光線力学的療法の検討」

千葉大学医学部 3 年 木下 裕貴

「カプサイシン椎間板内投与による疼痛刺激がもたらす神経系賦活化への影響」

千葉大学医学部 4 年 西織 浩信

「医学部生による心臓超音波最新技術の習得、熟練した循環器医、

生理検査技師との重症大動脈弁狭窄症における定量的マルチレイヤー心筋ストレイン所見の比較」

千葉大学医学部 5 年 小野 亮平

15:15 ~ コーヒーブレイク

15:30 ~ 特別講演

座長 千葉大学大学院医学研究院 分子ウイルス学

教授 白澤 浩 先生

『心筋イオンチャンネルをめぐる機能研究

— 若き医学生へのメッセージ —』

演者 千葉大学大学院医学研究院 薬理学

教授 中谷 晴昭 先生

16:30 ~ 学生講演表彰

司会 千葉大学大学院医学研究院 整形外科学

教授 高橋 和久 先生

16:40 ~ 閉会の辞

千葉大学医学部附属病院 病院長 山本 修一 先生

【世話人(敬称略)】

国立大学法人 千葉大学学長
千葉大学医学部附属病院長
千葉大学大学院医学研究院長
千葉労災病院院長
千葉大学大学院医学研究院 臓器制御外科学教授
千葉大学大学院医学研究院 整形外科学教授
千葉大学大学院医学研究院 分子ウイルス学教授
千葉大学大学院医学研究院 薬理学教授
千葉大学大学院医学研究院 粘膜免疫学

徳久 剛史
山本 修一
横須賀 収
河野 陽一
宮崎 勝
高橋 和久
白澤 浩
中谷 晴昭
坂本 明美

【事務局】

千葉大学大学院医学研究院 整形外科学 大鳥 精司
電話 043-226-2117 (内線 5303,5304)
FAX 043-226-2116
E-mail sohtori@faculty.chiba-u.jp

共催：ちば Basic & Clinical Research Conference
千葉医学会 / 第一三共株式会社



Basic & Clinical Research Conference Basic & Clinical Research Conference Basic & Clinical Research Conference

お
く
や
み

松本第一郎(専20)
 神田 勝夫(昭22)
 信藤 羊一(昭22)
 福島 溪二(昭22)
 市川平三郎(昭23)
 大和田耕一(昭23)
 中嶋 元(昭23)
 伊東 雅文(昭24)
 児島 三郎(昭24)
 小杉 秀雄(昭24)
 守岡 稔(昭24)
 伊佐 博夫(専24)
 下坂正次郎(専24)

田崎 裕一(専24)
 山川 晋吾(専24)
 神保 鎮(昭27)
 久米 通生(昭33)
 真鍋 溥(京塾・昭39)
 大山 隆男(昭40)
 吉田 明弘(昭44)
 杉田 敏夫(昭50)
 宮平 守博(昭50)
 寺田 夏樹(昭51)
 土屋 聖二(昭51)
 石川 成明(昭53)

全国のものはな同窓会の皆様には日々健康勝のごことお慶び申し上げます。平成27年となり、新年のご挨拶とともに第168号同窓会報をお送り申し上げます。本号にも、各方面の方々のご活躍の様子が満載され、心強い限りです。巻頭には、伊藤晴夫同窓会長から「年頭の挨拶」をいただきました。医療の発展が目覚ましい中、新年を迎え「千葉大発の研究」が一層飛躍することを願うところです。2月には、中谷教授、年森教授、高林教授、野村教授の最終講義が予定されており、多数の方々のご聴講に来校されることを期待しております。来校された際には新のものはな同窓会館にもお寄りいただき、「リゾート地のよう」と絶賛された事務室北側の窓からの緑をご覧になれることをお勧めいたします。なお記事満載の同窓会報の中に「オンライン会報案内」が紹介されています。動画を同

千葉医学雑誌90巻5号 2014年10月

症 例

急性胆嚢炎に対する早期手術の検討

大塚亮太 丸山尚嗣 田中 元 松崎弘志 夏目俊之 宮崎彰成
 太田拓実 佐藤やよい 山本悠司 相川瑞穂 柳原章寿

千葉医学会奨励賞

腸内細菌によるエピゲノム修飾を介した腸管免疫制御メカニズムの解明

尾畑佑樹

学 会

第1277回千葉医学会例会・第3回臨床研修報告会

第1278回千葉医学会例会・平成25年度細胞治療内科学例会

第1288回千葉医学会例会・第31回千葉精神科集談会

研究報告書

平成25年度猪之鼻奨学会研究補助金による研究報告書

雑 報

科学論文における英語の話

関根郁夫

OAP要旨

PainVisionは腰椎固定術後の腰痛評価に有用である

小野嘉允 大鳥精司 折田純久 山内かづ代 青木保親 宮城正行 鈴木 都
 久保田剛 佐久間洋浩 及川泰宏 西能 健 佐藤 淳 中村順一 志賀康浩
 江口 和 阿部幸喜 藤本和輝 金元洋人 高橋和久 稲毛一秀
 亀井克彦

編集後記

CHIBA MEDICAL JOURNAL Open Access Paper

Original Paper

PainVision apparatus is effective for assessing low back pain after fusion surgery

Yoshimasa Ono, Seiji Ohtori, Sumihisa Orita, Kazuyo Yamauchi, Yasuchika Aoki
 Masayuki Miyagi, Miyako Suzuki, Gou Kubota, Yoshihiro Sakuma
 Yasuhiro Oikawa, Takeshi Sainoh, Jun Sato, Junichi Nakamura
 Yasuhiro Shiga, Yawara Eguchi, Koki Abe, Kazuki Fujimoto
 Hiroto Kanamoto, Kazuhisa Takahashi and Kazuhide Inage

千葉医学雑誌90巻6号 2014年12月

原 著

散剤調剤における乳糖賦形量の減量とその評価

築地茉莉子 増田和司 鈴木貴明 有吉範高 石井伊都子

症 例

診断困難であった乳房内リンパ節転移を認めた乳癌の1例

會田直弘 木村正幸 石岡茂樹 竹下修由 佐塚哲太郎 浅井 陽
 田崎健太郎 菅本祐司 福長 徹 宮澤幸正 松原久裕

エッセイ

論文について

高野光司

海外だより

メイヨークリニック留学記

岡本聖司

サンディエゴ留学記

村松佑太

学 会

第1262回千葉医学会例会・平成26年度第13回千葉大学大学院医学研究院

呼吸器病態外科学教室例会

第1275回千葉医学会例会・第34回歯科口腔外科例会

第1284回千葉医学会例会・第37回千葉大学大学院小児外科学講座例会

雑 報

英語論文を読むことと書くこと

関根郁夫

OAP要旨

肝細胞癌における癌幹細胞の検出、特性解析、および癌幹細胞を標的とした

治療法の創出

千葉哲博

編集後記

岩瀬博太郎

CHIBA MEDICAL JOURNAL Open Access Paper

The Chiba Medical Society Award (2014)

Tumor-initiating cells in hepatocellular carcinoma: a possible therapeutic target

Tetsuhiro Chiba

第七回(2015年度)千葉医学会賞および奨励賞候補者の公募について

第8回 ちばBasic & Clinical Research Conference開催のお知らせ

90巻総目次・索引

編
集
後
記

杉田克生(昭54)



編集委員 写真左から

前列：鈴木信夫副会長(昭47)、青木謹(昭36)、三木隆司編集長(昭63)、伊藤晴夫会長(昭39)、高橋和久(昭51)、坂本薫(昭51)

後列：木元博史(昭61)、白澤浩(昭57)、杉田克生(昭54)、幡野雅彦(昭57)、廣島健三(昭54)、堀部和夫(昭52)、清水栄司(平2)